

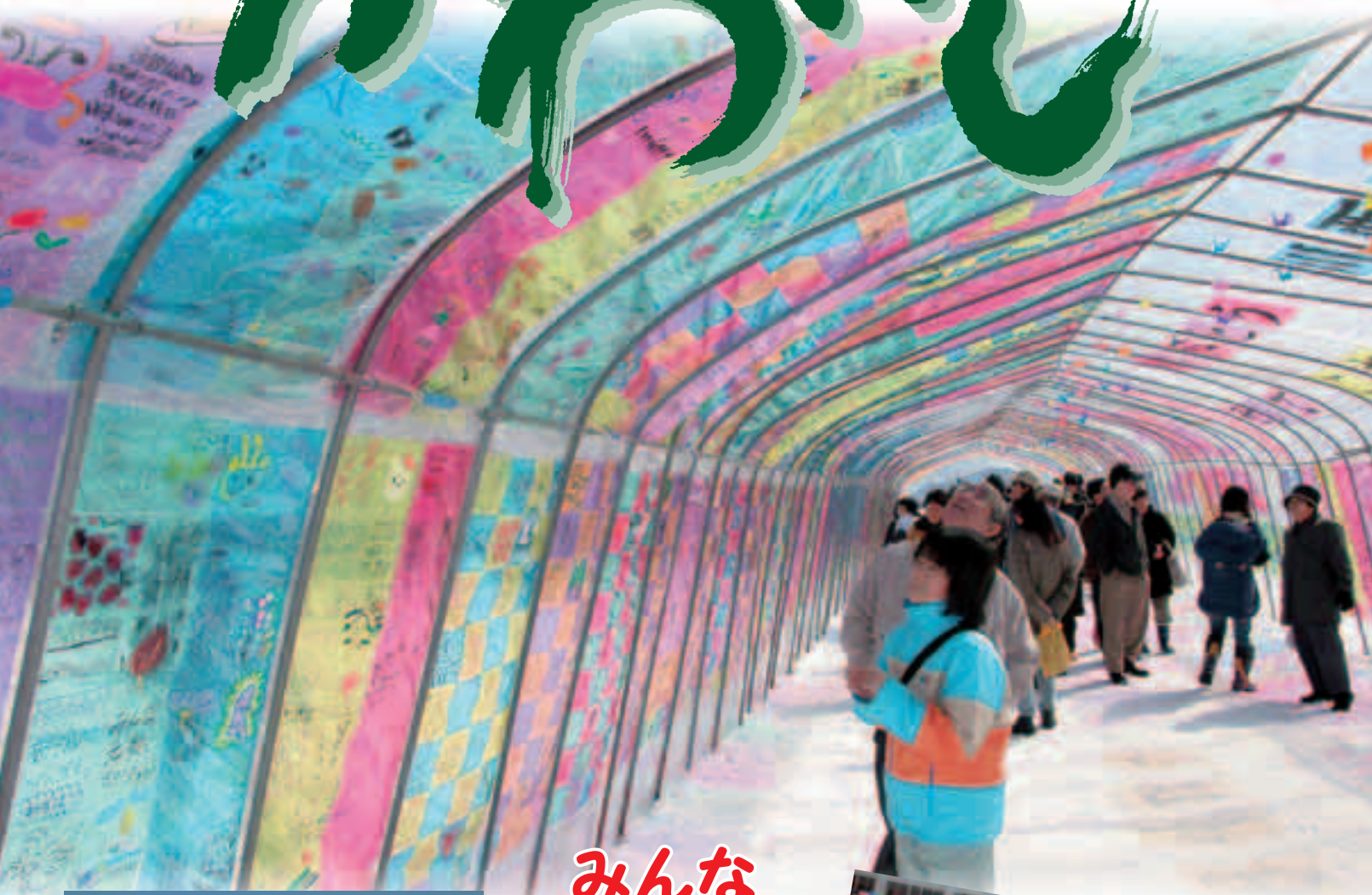
かわにし

広報かわにし

No.559

平成17年3月20日

最終号



みんな
いっしょに
新市へ



特集 歴代担当者が語る「広報かわにし」と川西町 …2

年表 川西町のあゆみ …11

真剣に考えよう合併について …24

第19回 かわにし雪まつり …34

人口の動き

—3月1日現在—

男 3,960 (−5)

女 4,022 (+1)

計 7,982 (−4)

世帯数 2,277 (−1)

() は前月比較

かわにし

かわにし

この空 この森
この感動!



節黒城跡からの展望
「広報かわにし」保存フォルダより

特集

歴代担当者が語る 「広報かわにし」と川西町

最終号にあたり

「広報かわにし」は今月最終号を迎えました。

昭和三十三年七月に発刊されてから五五九号を数え、その時のできごとやまちづくり、住民生活の情報まで、時の流れをとらえながらお伝えしてきました。

ここに掲載されていることがすなわち、「川西町の歴史」でもあります。そういう意味で、広報は川西町の生き字引・歴史の証人といえるかもしれません。「広報かわにし」を編集してきた担当者はこれまでに十五人（歴代「広報かわにし」担当者一覧参照／8ページ）。それぞれが構成に工夫を凝らしつつ取材に飛び回り、原稿の書き出しに悩んで何度も書き直し、締め切りに追われながら発行してきました。

そんな担当者みなさんにお集まりいただき、広報発行に関わるエピソードや、担当していた頃のできごとなどについて、ざっくばらんに語っていただきました。

お集まりいただいたのは、歴代担当者のうち、当日都合のついた十三人のみなさんです。

（敬称略）

——まず、ご自分が担当していた期間と、そのときのエピソードなどをお願いします。

昭和三十一年にも 県知事賞



金子幸作 ます、県広報コンクールでの「広報かわにし」県

知事賞受賞おめでとうございます。

実は、昭和の大合併で川西町が誕生する直前の昭和三十一年、「公民館報たちばな」が県知事賞を受賞しており、ともに合併直前の快挙として何か縁のようなものを感じます。

このころの公民館報は茶の間の話題が多く、住民にも好評だったので、合併当初は公民館報を発行する予定でした。いろいろな事情ではば二年後の昭和三十三年の七月、所属は教育委員会ながら広報という形で発行する運びになりました。

「発刊のことば」を中村壮吉町長が自ら書いて私の所に持ってきて、「今度新聞を出すてやんだども、毎月じゃ容易じゃねすけ、一か月おきにしらっしやい」といわれたので、最初は隔月に発行し、翌年の四月から毎月十日に発行するようにしました。

特集 歴代担当者がる「広報かわにし」と川西町



星名四郎 そのころは、農家の二・三男対策として上野にで

新町長 アンジヨーたのんまつせ！

昭和三十六年の五月号を最後に星名さんにバトンタッチしました。



二代根津正三町長誕生を伝える第110号 (昭和42年11月)



「広報かわにし」創刊号 題字は中村壮吉町長 (昭和33年7月)

きたばかりの農業センターの専任主事で、二十人くらいの若い衆のめんどうをみていたところ、突然教育委員会に異動だと言われてびっくりしました。それも、広報の担当なんて「とんでもないことになった」と思ってたっけ。

当用漢字や仮名づかいの勉強から始めて、前任の金子さんや後任の北村さんのお世話になりながら作ってたんその。

三年ぶりの一般質問



北村準一 星名さんの後を受けて、昭和四十二年の十二月から四十九年の三月まで担当しました。

所属は、教育委員会から、発足したばかりの企画室に移りました。総合開発計画の策定とともに、根津町政の「計画行政」の始まりを告げるものでした。また、広報とは別に年一回の「町政のひろば」を発行するようになったのも、この年度からで

す。きっかけは、議会で三年ぶりの一般質問者が十人出たので、その内容を載せるためでした。担当期間中、コラムに「学校教育と社会教育は車の両輪」、「体育協会を作りたい」、「川西町にも高校を」などと書いた記憶がありますが、いずれもその後実現したことが、うれしい思い出になっています。

泣きながら帰った



小海正隆 昭和四十八年度は転作の担当をしていましたが、

その年の十二月二十八日御用納めの日、「来年一月一日から広報担当」と言われて、泣きながら帰った記憶があります。

当時、広報の仕事というのは、取材から原稿集め、住民参加の広聴の観点も必要になってきたことから、「大変な仕事だ」という雰囲気がありました。

一方で行政と住民の橋渡し役という思いもあって、結構自分の好きなように編集していました。そのころは、

担当者が自分だけの考えで編集・発行していたように思います。だから、時にはえらい方からおしかりを受けることもありました(笑)。

「戸籍の窓から」の欄では、名前を間違えて、何度も謝りにいった苦しい思い出があります。(編集部注／ほぼ全員が同様の経験があります)▼昭和五十三年八月から、紙質が光沢のあるアート紙になりました



総合センター開所式を伝える第189号 (昭和49年5月)



町政のひろばNo.1 (昭和43年2月)

四〇歳までには



数藤春夫 小

海さんの後を受けて、昭和五十五年四月から六

しくなりました。任期中、アキレス腱を二回切るけがもしましたが、なんとか休刊しないで続けることができました。三四歳で担当になり、なんとか四〇歳までには外れたいと思っていましたら、そのとおり四〇歳で異動になりました(笑)。

写真とカラーページ



平野勝 昭和

六十一年度から平成元年度まで担当しました。

昭和五十九年五月から「お知らせ版」を出すようになりました。週間で出すという話もありましたが、十日おきに月三回出すことになり、とてもあわたた

広報とお知らせ版で月三回発行していたのに併せて、文書管理、例規管理、統計調査も担当

していたので、かなり忙しい思いをしました。

紙面では、写真を用いるべく多く使うように心がけました。

そのことから、なんとか表紙をカラーページにしたいと予算要求をして、通算三五

お知らせ版第1号 (昭和59年5月1日)



第1回目のちいさな展覧会 (昭和63年8月)

〇号を記念して昭和六十二年十月号から二年回カラーページが設けられることになりました。

そのとき、子どもたちの作品を紹介する「ちいさな展覧会」のコーナーを設けました。これが、発展的に今にまで引き継がれているのはうれしいですね。

唯一の二回担当



登坂隆 平野

さんの後を受けて平成二年度から五年度、それ

から出戻りで平成九年度から十二年度の合計八年間担当させていただきました。

当時、職員の間で行きたくない部署がいくつかあり、その一つが広報でした。取材などで土・日、昼

夜の別なく出かけなければならず、期限に追い立てられながら、苦手な作文と編集をしなければなら

ないので、できれば避けたい部署でした。そんな思いとは裏腹に、二回担当にな



写真を多く使ったレイアウト (平成2年5月号)

追っかけるのは大変



渡辺ミツ 平

成五年四月から七年三月まで係

長の職にありましたが、主に統計の方を担当して広報の仕事にはほとんど携わりませんでした。

取材で「河岸段丘ウオーク」



初めて新成人の顔写真を入れた平成4年5月号の紙面

の写真撮影に行きましたが、みなさん歩くのが速くて、追っかけて撮るのはとても大変だった思い出があります。「成人式の顔写真に何で名前が出ないのか」というおしゃりも受けました。紙面からは撮影の苦労は分からないと思うので仕方ないことですが、結構せつなかつたですね。

特集 歴代担当者がる「広報かわにし」と川西町



千手温泉の掘さく成功を伝えるNo.440 サイズもA4に
(平成7年4月号)



季節感のある写真が表紙を飾りました
(平成6年5月号)

(編集部注／原稿を印刷所に入稿する日を何日も過ぎてからの撮影で、式典前のわずかな時間しか撮るチャンスがなく、その日の早いうちに編集・校正作業を終えなければならぬため、顔と名前を確認しながら撮影・編集することは、現実的にはほぼ不可能です)

広報は一人ではできない



宮正朗 平成
六年度から八
年度までの三年間
担当しました。

広報は一人ではできないもの
だと思っています。担当した当初は、

B5版で活字も小さかったた
で、広報検討委員会を組織して
協議を重ね、A4版で活字も大
きくしました。

ただ、活字が大きくなった分、
間違えやすくて目立つので、
「冷や汗三斗」なんてことも何
度もありました(笑)。

また、「かわにし」の題字も
変え、「お知らせ版」を月一回
にしました。国・県や他団体か
らの依頼のものが多く、住民生
活にあまり密着していないもの
が多かったからです。

A4になって写真も大きく使
うようになったので、表紙の写
真にはこだわり、なるべく季節
感のある写真を使うように心が

けました。

担当者のセンス



石沢昌子 平
成七年から九年
まで、宮さんと
一緒に仕事をさ
せていただきました。私も、写
真撮影や校正作業くらいしか手
伝っていませんが、広報担当者
は、土・日・祝祭日も早朝でも
夜でも出かけなければならず、
大変だと思います。

担当になったときは千手温泉
が出たばかりで、仮設の浴槽に
の園児が入浴している写真を撮
りに行きました。自分も水着姿
になる覚悟でしたが、そうなら
ずに済みました(笑)。

シャッターチャンス逃さない
ように撮るのは難しいと思い
ました。特に、一回しかチャン
スがないものは、ちゃんと撮れ
ているかどうか、いつも不安で
した。

発行したと思ったら、もう次
の号の企画にかななければなら
なくて、過密なスケジュール
でしたが、その分いろいろな勉
強をさせてもらいました。

こういう仕事は、担当者のセ
ンスが出るものだと思いますが、
みなさんがすごい仕事をしてき
たんだと、改めて思います。

カッコつけなくていい



保坂恵美子 平
成十二年度か
ら十五年度まで
担当しました

が、主にお知らせ版と統計の仕
事をしました。

たまに取材に行つて記事を書
くこともありましたが、文章を
書くのが苦手でも苦勞しま
した。上司から「カッコつけな
くていいから、思ったままを書
けばいいよ」と言われて楽にな
りました。

楽しい経験させていた
だきました。

いつもドキドキ



取材して感じたままを記事にします
(平成14年6月号)

出演料？



渡辺正範 平
成十三年度か
ら担当していま
す。こうしてお

います。私も主にお知らせ版と
統計の分野を受け持っています。
取材に行き、写真を撮つたり
話を聞いたりしてとてもいい経
験になりました。小正月行事の
取材をしたときは、集落でこれ
ほどやり方が違うのかと、驚き
でした。

ただ、写真を撮るのがとても
難しいことを痛感しました。ピ
ンぼけ、手ぶれなど失敗だらけ
で、出来上がってきた写真を見
るときは、いつもドキドキでし
た。



1月15日が休みで
なくなって小正月
の行方は？
(平成16年2月号)



「大雨の被害 1 億円」
を伝える第 10 号 1 面
(昭和 34 年 8 月)



職員の関心も高かった
「ズームアップ役場」
(平成 14 年 8 月号)

話をうかがっていると、それぞ
れのみなさんがしつかりした信
念をもって取り組んでこられた
ことが、今の「広報かわにし」
に継承されていることがよく分
かります。

広報にどんなに重要なことが
書かれていても、読んでもらわ
なければ意味がありません。そ
れで、毎月特集を組むとともに、
いろいろな読者層から関心を持
ってもらえるように「だんだん
どーも」や「いっぷくしよぜの」
など、いくつかのコーナーを設
けました。

また、「敷居が高い」、「とっ
つきにくい」といわれる役場を、
少しでも血の通った人間のいる
ところとして理解してもらえ
るようにと「ズームアップ役場」
を連載しましたが、「〇〇が広
報デビューしたな」、「出演料も
らえるかな？」など、むしろ職
員の方が関心を持ってくれたよ
うです。

平成十五年四月号から、題字
を当町出身の商業書家平野壮弦
さんデザインロゴに変えまし
た。

——特に印象に残っているこ
とや今だから言えること、取り
組んだ企画などをお願いしま
す。

広報はうそも書く？

金子 特に忘れられないよう
なことは：言わねえこつお
(爆笑)。

私の場合、ペンを持つと酒に
酔ったように元気が出て、権力
者に関係することでも、ついつ
い週刊誌的な突っこみで書いて
しまう癖がありました。そのた
め、お偉い筋の逆鱗に触れたこ
ともありました。

逆に、読み手はそんなことが
面白いようで、中越管内の公民
館報から連載を依頼されたり、
新潟県や全国の機関紙からも原
稿依頼が来ることもありまし
た。

実話に基づく農民文学の小説
を広報に連載したかったのです
が、思想的に偏る危険があると
して果たせませんでした。そう
いう憂いは、当時の広報担当者
はたいていの人が抱いていまし
た。

大雨が降って、町内各地で土
砂崩れなどの大きな災害が起き
たとき、「大雨の被害 1 億円」
と一面トップ大見出しで書いた
ところ、担当課長から「困った
ことを書いてくれた」と言われ
ました。

「各担当から被害額を聞いて
積算したので間違いないはず」

と答えたら、「それがまずい」
言われました。つまり、国・県
から災害復旧のための支援を受
けるために、もつと多くの被害
額を書いてほしかったというこ
とでした(笑)。そのときは、

「広報はうそも書かなければな
らないのか」と複雑でした。

あるとき、春のいぶきという
タイトルで、ふきのとうの「強
烈な味覚」と書いて印刷所にま
わしたところ、出来上がった広
報では、なぜか「ふくよかな味
覚」と直されていました。これ
にはびっくりしました。最終原
稿をさらに校正する人がいたわ
けです(笑)。

追悼臨時号

星名 八十(歳)にもなれば、
へえみんな忘れていくこつお
(笑)。

枕元にチラシの切り紙を置い
て、夢うつつで思いついたこと
をメモするようにしてました。

それぐらい中身や
見出しが気がかり
だった。

名前の字が一番
めんどろだった
の。「壹」を「一」
と略字で載せたら
大目玉をくらっ
た。次の号で訂正



故中村町長を追悼する臨
時号
(昭和 42 年 9 月 27 日)

したってしょうがねと言われて
困ったつて。
議会の当選者にインタビュー
したときも、あっちを書いてこ
っちを書かねやんはまずいんだ
んが、なんぎくなるようだつて。
て。

住民が何を求めている、どう
いう意見を吸い上げたいのか
悩んで、「編集終わって楽々」
なんてもんじゃなかったの。創
刊五十号を記念して、今日のよ
うな座談会を開いてみんな得意
見を出し合い、いろいろ試行錯
誤したこつお。

平見に石油が出るというので
調査の掘削が始まっていたころ
のこと、中村町長からその写真
を撮ってくるように言われたど
も、冬の最中で現場に行くのも
大変だったし、雪の下じゃどう
やっても絵にならず、これには
参ったつて(笑)。

昭和四十二年九月八日、初代
中村壮吉町長が現職のまま亡く
なったときには、九月二十七日

特集 歴代担当者がる 「広報かわにし」と川西町

付で追悼特集の臨時号を出しました。

大変なおしかり

北村 昭和四十二年、根津町政になってすぐに着手した総合開発計画づくりでは、自治会館に泊まり込みで勉強に行きました。早速審議会を立ち上げて策定作業を進めました。当時、町村で総合計画を策定しているところは、ほとんどありませんでした。

過疎法の制定も、このころの大きなエポックメイキングでした。

た。仙田地区開発振興協議会は、そんな流れの中から生まれまし

た。役場で雪上車とジープを導入したのもこのころで、これで機動力が大幅増したことを記憶しています。役場の職員で自家用車を持っていたのは、金子幸作さんくらいの時でした。

津南町で中魚沼地域としては初めての「県政懇談会」が開かれ、「広報」だけでなく「広聴」に目を向ける時代になったことを実感しました。

そのころ、「広報スケッチ」という写真を入れた柔らかないコー



ジープ導入をトップで伝える（昭和43年1月号）



町の木・花・鳥決定を伝える紙面（昭和51年8月号）

町の木・花・鳥を独断で決めた！

ナーを設けて、学校での虫歯や仮性近視の話題を記事にして印刷に回したところ、広報になって出てきたのは自分が書いたものとは違うものでした。印刷される直前、ある関係者が具合の悪いところを書き直してしまっただけです。このときは、さすがに怒って猛烈に抗議しました。あと、企業誘致に携わっていたころ、進出が決まった某社のことを紹介するつもりで記念セールのことまで広報に載せてしまい、商工会から大変なおしかりを受けたことも、今では思い出になっています。

小海 今は広報の題材に事欠かない時代ですが、昭和五十年代前半のころは、町のできごとなどは数少なく、ましてイベントなんかは行われませんでした。だから、毎年二月号は節分

の子どもたちの記事で決まり、みたいになってしまいました（笑）。活字を九ポ扁平から十ポ扁平に変えて読者の反応を見守っていましたが、反応はほとんどありませんでした（笑）。文字や文章の構成にはかなり

気を使ったつもりです。広報先輩の金子さんから、「某団体の広報紙は民放で広報かわにしはNHKだの」と言われたことが今も印象に残っています。前にも言ったように、広報は自分一人だけの考えでまとめたまま、昭和五十一年、合併二十周年の年に町の木・花・鳥を決めるときも、自分の独断で「ブナ」「ヤマユリ」「キジ」を決めてしまいました（えー！）。広報で募集はしたんですが、応募点数が少なかったもので、えいやと決めて、応募者には粗品のくつ下なんかをあげて、それでおしまいにしました。今でも、町の木・花・鳥を見るたびに、われながら大胆なことをやっただけだなーと、そう思います（爆笑）。

たとえ町長の作文でも

数藤 五六豪雪、五九豪雪、その後の数年間もかなりの豪雪で、毎年のように豪雪対策本部が設けられていました。

そんな最中の昭和五十八年五月二十二日、ブナ林まつりで根津町長が倒れ、急逝するという衝撃的な事件がありました。五



根津町長の急逝を伝える臨時号（昭和58年5月27日）

月二十七日には臨時号を発行し、六月十日号で町葬の特集を組みました。昭和六十年十月九日には、名誉町民藤巻力雄先生が亡くなられ、担当した六年間は、災害や訃報に追いつていられたように思います。

めでたい思い出としては、昭和五十六年、合併二十五周年を記念して町民憲章を制定したことです。識者五人から草稿を寄せていただき、町史編さん委員会委員長の竹内道雄氏から監修してもらいました。今度は、勝手に決めたりはしませんでした（笑）。

編集の姿勢としては、他から寄せられる原稿も、文章はきちんと校正しました。たとえ町長の作文であっても、広報編集者として赤（直し）を入れました。あと、写真は必ず「一枚撮らせてください」と断ってから撮りました。大変だったのは、議会の一般

歴代「広報かわにし」担当者一覧（敬称略）

氏 名	担当期間	氏 名	担当期間
金子 幸作	S33. 7 ～ S36. 5	—	—
星名 四郎	S36. 6 ～ S42.11	—	—
北村 準一	S42.12 ～ S49. 3	—	—
小海 正隆	S49. 4 ～ S55. 3	—	—
数藤 春夫	S55. 4 ～ S61. 3	—	—
平野 勝	S61. 4 ～ H 2. 3	小川 広一	S61. 4 ～ H 2. 3
登坂 隆	H 2. 4 ～ H 6. 3	渡辺 ミツ	H 5. 4 ～ H 7. 3
宮 正朗	H 6. 4 ～ H 9. 3	石沢 昌子	H 7. 4 ～ H 9. 3
登坂 隆	H 9. 4 ～ H13. 3	山田美奈子	H 9. 4 ～ H11. 3
渡辺 正範	H13. 4 ～ H17. 3	保坂恵美子	H12. 4 ～ H15. 3
		星野 直子	H15. 4 ～ H17. 3



人と車の流れを変えた妻
有大橋の開通（平成4年
6月号）



外国から嫁いだ花嫁さん
に囲まれる南雲前町長
（昭和63年年1月号）

感情が入ると失敗

平野 この地域はローカル紙が多く、行事やできごとはどうしても新聞の方が早いので、広

質問です。今のように「議会報」がなかったので、質疑のやりとりを広報で紹介しました。録音テープを議会事務局から借りてテープ起こしをし、それを紙面に合わせて集約するのは、かなりの根気とエネルギーが必要でした。

報の記事は出遅れた感じになってしまっています。自分が作った広報が読まれているのかどうか不安だったので、アンケートを実施したり、表紙に多くの住民の集合写真を載せたりして反応を見ました。やっぱり自分が載ったものは見てくれるようです。投げかけて、返ってくる広報が理想だと思います。

自分が担当した昭和六十年代、平成初期は、大きな事業が完了していた時期だったので、子どもたちや家庭のことなど、身

近な話題を取り上げるようにしました。

嫁婿対策、特に嫁対策が大きなテーマとなったところで、家庭相談係という専門のセクションもありました。その協力を得ながら、若い夫婦を紹介するコーナーを設けたり、海外から来た花嫁さんを大きく扱いました。

苦労したのは写真でした。感動したりかわいそうになったり、感情が入ってしまうと、撮ってもたいてい失敗しました。冷静に一步踏み込んで撮ることができるようになるまで、かなり時間がかかりました。カメラも、年代物のマニユア

登坂 担当していたころのできごととしては、平成二年からの「ふるさと創生事業」の実施があげられます。大型ヘリコプターで町内上空を遊覧する「夢フライト事業」などのソフト事業ほか、今や地域の憩いの場となっているナカゴグリーンパークの整備も進められました。そのほかの事業もおおむね順調だったようです。

平成四年の「妻有大橋開通」も、その後の地域の運営に大きな影響をもたらしたと思います。ただ私は、先輩諸氏のように情熱を持って時代を論じることにはできません。歴代編集者の実績に、ただ頭が下がるばかりです。

宮 私は幸か不幸か背が高いので、催しなどで写真を撮りに前に出ると、後の人が見えなくなってしまうようです（笑）。骨折ってイベントを実施している人たちの脇を通って、ずかずかと会場を歩き回るのも、申し訳なく気が引けたものです。ただ、写真を撮る時間は五分とか十五分でも、そのために休日の半日がつぶれてしまうので、子どもたちと遊ぶ時間が取れなくてつらかったことも覚えています。

担当していたころの大きなできごととしては、やはり千手温泉が出たことですね。これで、

ふるさと創生が転機に

ル機だったので、オートフォーカスカメラを予算要求し続けましたが二年連続で落とされ、三年目でようやく一台買ってもらいました。

町外の、依頼された撮影場所とは違うところの写真を撮ってしまったこともありました。

とにかく写真は大事だと思っています。



7.11 水害を伝える紙面（平成7年8月号）

どこが水害？

特集 歴代担当者がる「広報かわにし」と川西町



地震の被害を伝える紙面（平成16年11月）

渡辺（正）
担当して四年目になります。が、印象に残るできごととしては、何と言っても昨年の中大震災です。地震当日役場においてそのまま災害対策本部の対応に当たり、多くの職員がそうだと思います。が、家に帰ったのは十日後

それからまちづくりの方向が大きく変わりました。
平成七年の七・一一水害では、洪海川の増水が激しく、主に仙田地区の被害が大きいものでした。
石沢 そう、それで兵庫県川西市のみなさんが、阪神大震災の義援金として川西町から一〇〇万円を贈ったことに対するお返しも兼ねて、役場に義援金二〇〇万円を持参してくれました。ところが、水が引いた後の役場周辺は、「どこが水害にあったの？」というくらいにふだんどおりで、なんか受け取るのが悪いような感じでした。

すごくラッキー

星野 昨年・今年の雪まつりほんやら村の取材では、それぞれの集落が頑張っている姿や、楽しみながら取り組んでいる様子から、「地域の力」を見ることができました。
広報の仕事をしていなければ、いろいろなイベントなど知る機会がなかったと思うので、「すごくラッキー！」って感じます。

取材どころじゃない

でした。二十四時間体制で物資調達・配給の担当をしていたため、正直言って取材や編集どころではありませんでした。
十一月号はミニページにしようかとも思いましたが、「こういうときこそ広報が読まれる」と思い直し、お知らせ版と広報の発行日を変えて、全体の被害状況と地震関連情報だけに特化したものを発行しました。
発行日の翌日から余部を求める電話が殺到し、二回（八〇〇部）増刷しました。十二月号はその続編で、復興への取り組みやその後の展開などについて、住民のみなさんから寄せられた体験や情報を中心にまとめました。こちらは、あらかじめ多く印刷してあったので、あわてて増刷することはありませんでした（笑）。
結果的に十二月号が広報コンクールで知事賞をいただいたわけですが、あくまでも、十一月号と十二月号でセットだと位置づけています。
住民のみなさんと印刷所のご協力がなければできませんでした。ありがとうございました。
——最後に、これからの広報に期待することをお願いします。

地域のページを

保坂 「小さな展覧会」のような写真を見るのが楽しいの

で、写真を多く使ってほしいと思います。
二色刷りは、よほどセンスが良くないとかえって見にくくなってしまうので、できれば、表



紙の二面はカラー刷りにしてほしいと思います。

星野 私は、新市の人や歴史、行事などいろいろなことを知りたいので、そういう情報をたくさん出してほしいと思います。

また、市民のみなさんから職員に対して親しみを持ってもらえるように、「ズームアップ役場」のようなコーナーを、ぜひ設けてほしいと思います。

石沢 JAが合併したときもそうだったんですが、地域の話題が少ないと寂しい気がします。管内平等に扱わなければならぬのは分かりますが、なるべく身近な話題を多く載せてほしいと思います。

渡辺（ミ） 広報かわにしがなくなるのは寂しいです。広く浅くなってしまうと読まなくなってしまう可能性がありますので、「支所版」のようなものではないでしょうか。

平野 松代町や松之山町など他市町村の集落のことを知りたいので、地域のページを設けてほしいですね。

（編集部注／各支所単位のページを設ける予定です）

タイムリーな企画が命

宮 お知らせなどで外部から依頼されるものが多くあります

が、住民のために必要な情報かどうか、疑問のものもあります。掲載するものとしなものとの住み分けをしてほしいと思います。

登坂 お知らせは必要最小限にして、新しい情報や企画ものを入れてほしいと思います。

数藤 広報は、読んでもらわなければどうしようもないものです。タイムリーな企画記事を考え、なるべくたくさんの方の市民を登場させてほしいと思います。子どもたちが読むことを配慮して、常用漢字を使うようにお願いします。

小海 県で一番になったことをベースに、引き続き読まれる広報を作っていくしてほしいですね。

北村 行政情報は、インターネットなどで誰もが取り出せる時代になりました。だから、選ぶのが難しい面もあります。

住民がほしい情報を、いかに選んで出していくかを念頭に置いて、編集してほしいと思います。

星名 人は一人ひとり意見が違ふものです。みんなの声を素直に受け止めて出していくことが大事だの。

合併で相当広いエリアを扱わなければならないわけですが、この素朴で美しい地域が損なわ

れることのないように、そのことを子どもたちに伝えられるような広報にしていきたいと思っています。

真っ白な雪原に一步を

金子 お知らせ版的な内容なのか、市長の御用紙なのか、理想郷をめざして六万五千人の旗振りをするのか、広報の性格をはっきりさせてほしいと思います。

市民の立場で、世間話をするような視線で書いてほしいと思います。たとえば、以前、「あさつてを向く扇風機」というコラム（ズームアップ役場No.16）がありました。そういう感覚を大事にしてほしいと思います。

また、新しい市には、どれくらい集落がどんな風にあるのか紹介してほしいと思いますし、広報の名称もやわらかいものにしていただけたらと思います。

四月一日、六万五千人が新十日町市という真っ白な雪原に足を踏み入れるわけですが、そんな市民を導いてくれるような広報を期待します。

——貴重なご意見をありがとうございました。

みなさんの意を汲んだ広報紙

となるように、新市の広報担当者には伝えたいと思います。もともと、筆者もその一人ですが…。

広報かわにしは、今号でその

幕を閉じます。長い間ご愛読ありがとうございました。そしてこれからも、新しい「市報とおかまち」をよろしくお願いいたします。

すべてはこの子らに…



川西町のあゆみ

※年代の次の行の太字の事項は世の中の出來事

昭和31年（1956）

日本が国連に加盟 石橋湛山内閣成立 日本隊（横有恒隊長）マナスル初登頂

9月●川西町誕生

●初の町議会を招集（議員総数69人）

●橋中学校屋体完成

10月●初代町長に中村壮吉当選

11月●千手小学校鉄筋校舎完成

●合併祝賀会を挙行

昭和32年（1957）

ソ連、初の人工衛星スプートニク打ち上げ成功 岸信介内閣成立

1月●役場機構改革、課制を廃し係制に

8月●町議会議員選挙を執行（小選挙区制定員26人）

●農業委員選挙を執行

11月●農業センター完成

12月●役場庁舎完成

昭和33年（1958）

大相撲6本場所制に、初の名古屋場所 1万円札発行

7月●広報かわにしを創刊

8月●岩瀬橋完成

●橘小学校舎増築工事完成

9月●上野小学校舎完成

●白倉小学校屋体完成

11月●千手保育園開園



川西町誕生



農業センター完成



岩瀬橋渡り初め

●千手町農協で有線放送開始

12月●大倉で火災、6戸焼失

昭和34年（1959）

南極観測隊のタロー・ジロー生存確認 明仁皇太子ご婚儀

1月●町議会で学校統合推進を決議

4月●室島橋完成

6月●新生活運動の県モデル地区に指定

7月●豪雨の被害、推定額1億円

8月●橋診療所完成

●仙田小高倉分校改築完成

11月●栄橋起工式

●千手小学校舎改築

昭和35年（1960）

安保闘争 池田勇人内閣成立 国民所得倍増計画、閣議決定

4月●国土調査事業に着手

7月●3年続きの豪雨、水害発生、災害復旧事業の共同施行を町営事業に移管

●松葉沢水系の開田事業に着手

8月●第1回町民運動会

●橘小学校舎改築

12月●ブルトーザーD50購入

昭和36年（1961）

ソ連ボストーク1号、初の人類宇宙飛行

大鵬・柏戸、横綱に

4月●役場機構改革、13係制を4課制に

●川西中学校発足

●支所を廃し、出張所・連絡所に



栄橋起工式



完成した橘小学校舎

5月●中仙田小田戸分校廃止

7月●仙田橋完成

8月●第2回町民運動会

9月●第2室戸台風で家屋の倒壊48戸を数える

昭和37年（1962）

北陸トンネル開通、日本最長13870m

堀江謙一、太平洋単独ヨット横断

6月●農業共済事業を町に移譲

7月●交通安全町を宣言

●旧千手・上野中学校舎閉鎖

8月●川西中学校舎完成

11月●千手小学校で完全給食開始

●橋中学校特別教室完成

12月●仙田中学校寄宿舎完成

●中央公民館を旧千手中学校舎へ

昭和38年（1963）

松山事件再上告審判決、全員無罪確定

米ケネディ大統領暗殺

1月●木落大原の開田事業計画着手

●伊勢平治千手観音堂焼失

4月●仙田中第2分校（白倉）独立

9月●仙田中第1分校（室島）を本校に統合

11月●上野中学校舎を中仙田小学校舎に移築

●上野小学校屋体完成

12月●橘の南沢、北沢災害復旧工事完成

●マイクロバス第1号購入

昭和39年（1964）

東海道新幹線開業 東京オリンピック

藤栄作内閣成立



第2室戸台風による被害



川西中学校舎完成



マイクロバス第1号

佐

3月●川西町中学校屋体完成
5月●国体旗リレー本町を通過
8月●第1回町民体育祭
9月●赤岩小学校で完全給食開始
11月●栄橋完成

昭和40年（1965）

日韓基本条約成立 家永三郎教科書検定訴訟提訴

永振一郎ノーベル物理学賞受賞

1月●国保被保険者に7割給付を実施

2月●国道252号改良計画調査測量着手

5月●千手観音堂再建工事開始

●橘小学校で特別教室を焼失

●赤谷橋災害復旧工事完成

7月●千手小学校プール完成

9月●町内初の教員住宅白倉に完成

11月●母子健康センター完成

●橘中学校舎復旧工事終了

昭和41年（1966）

建国記念日の日制定 中国、文化大革命始まる

トルズ来日 人口1億人突破

4月●橘小学校で完全給食開始

●町立幼稚園開設

7月●千手観音堂完成

●千手郵便局舎完成

9月●合併10周年記念式典

10月●上野小学校完全給食施設完成

昭和42年（1967）

自動車保有台数1千万台突破

吉田茂死去89歳、戦後初の国葬

4月●桐山集落を松代町に編入

7月●小脇荒瀬橋完成



当時の小脇荒瀬橋



川西幼稚園開園



千手小学校プール



朝 国体旗リレー役場前通過

9月●中村壮吉町長死去、町葬を行う
10月●二代目町長に根津正三が当選
12月●田代集落開村

●仙田地区に農集電話開通

昭和43年（1968）

霧が関ビル完成 小笠原諸島返還 川端康成ノーベル

文学賞受賞

4月●錦鯉組合を設立

●国鉄信濃川発電工事第4期

着工

6月●町章を制定

10月●第2回町民体育祭

11月●第1回合同竣工式

●中仙田小学校仙田中学校で

完全給食開始

12月●雪上車第1号購入



第1回合同竣工式

昭和44年（1969）

安田講堂封鎖解除 アポロ11号月面着陸

2月●慶大医事振興会の診療班が仙田地区で活躍

●議員定数4人削減（22人）

3月●上野・橘・仙田の3農協合併し、川西農協となる

5月●国道252号工事着工

8月●川西町総合開発計画を答申

9月●中仙田にへき地出張診療所

開設

11月●国鉄信濃川発電工事第4期

完成祝賀会

●町内に初の消雪パイプ完成



町内初の消雪パイプ

昭和45年（1970）

大阪万国博覧会 よど号ハイジャック

光化学スモッグ被害続発 三島由紀夫事件

4月●敬老祝金、寝たきり老人見舞金支給開始
5月●工事誘致条例を制定し、(株)ハリマヤの工場進出

決定

●役場庁舎増築に着手、11月

完成

7月●上野小学校プール完成

9月●上野に歯科診療所開設

●老人憩いの家月見荘開所

10月●節黒城跡に展望台完成

12月●上野交差点に町内初の信号

機を設置

●千手地区簡易水道通水

昭和46年（1971）

円切り上げ、1ドル1308円に 横綱大鵬引退

3月●過疎地域対策緊急措置法の指定

4月●橘中学校を川西中学校に統合

●県営ほ場整備事業に着手

5月●ごみ収集作業を開始

6月●千手城山にモトクロス場が

実現

9月●除雪用グレーダー購入

10月●農業振興地域の指定

11月●中仙田簡易水道の通水式

昭和47年（1972）

札幌冬季オリンピック 沖縄返還 田中角栄内閣成立

横井庄一さん発見 パンダ2頭来日、公開

3月●十日町高校仙田分校（定時

制）閉校

4月●上野保育園開設

●第2次構造改善事業着手

5月●仙田地区開発振興協議会を

設立

6月●結婚相談員設置



上野保育園



ごみ収集作業を開始



役場庁舎増築に着手

6月●霧谷・平見・星名新田の各集落閉村
7月●川西中学校プール完成
10月●第3回町民体育祭

●橘簡易水道通水
12月●南原へき地保育所焼失

昭和48年（1973）

外国為替、変動相場制に移行
第1次石油ショック、狂乱物価

江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞

3月●中仙田・仙田・赤岩3小学校統合を決定

4月●橘保育園開園

6月●林道市ノ越線開さくに着手

7月●川西町農協誕生

8月●山野田地内に宅地造成、栄町誕生

11月●民俗資料館完成

12月●高倉国際村に共同ロッジ完成

成

昭和49年（1974）

高校進学率90%を超す 三木武夫内閣成立

小野田さん帰国 長嶋茂雄、現役引退

1月●赤岩簡易水道通水

2月●交通事故死ゼロ500日を達成

3月●中仙田・仙田・赤岩の3小学校閉校

4月●総合センター開館

●新生仙田小学校舎完成、開校

5月●仙田小学校スクールバス購入

入

7月●白倉小学校にプール完成

8月●川西ダム定礎式

10月●国道252号越ヶ沢トンネルが完工、町内全線開通

12月●第2次総合開発計画を答申



白倉小学校にプール完成



高倉国際村が誕生

●(株)大和伸管所新潟橋工場操業

昭和50年（1975）

ベトナム戦争終結 沖縄海洋博覧会
国鉄などスト権奪還スト

3月●仙田・白倉両中学校閉校

4月●全町一中学校スタート

6月●農村総合整備計画策定町に指定

7月●交通事故死ゼロ1000日達成、町内パレード

9月●林分改良開発事業に着手

10月●克雪管理センター完成

昭和51年（1976）

ロッキード事件発覚

福田赳夫内閣成立

田中角栄逮捕

1月●千手、橘両局の電話が自動化

3月●板碑20基を町文化財に指定

5月●農村総合整備モデル事業の実施指定

7月●仙田小学校プール完成

8月●山野田地内第2次宅地造成

成

9月●合併20周年記念式典

10月●第4回町民体育祭

●木落簡易水道通水

昭和52年（1977）

山下泰裕全日本柔道最年少優勝、以後9連覇 王貞治、75

6号本塁打

1月●県立十日町高校川西分校の独立決定

の独立決定



県立川西高校開校



20周年記念式典



交通事故死ゼロ1,000日達成パレード

3月●県立十日町高校川西分校閉校
4月●県立川西高校誕生

●心身障害者の通所援護施設なかまの家開所

5月●上野連絡所内に歯科診療所移転

8月●川西ダム築堤完成

10月●室島簡易水道通水

昭和53年（1978）

新東京国際空港開港 西武ライオンズ発足

大平正芳内閣成立

江川選手、巨人入団問題

3月●川西町が優良町村として全国町村会長表彰

6月●二市三都身体障害者体育大会

8月●川西ダム地固め式（横綱北の湖）

10月●町民総合体育館完成

●町民皆スポーツ宣言

11月●仙田地区広報無線放送開始

●田戸簡易水道通水

昭和54年（1979）

国公立大学共通一次試験

朴正熙韓国大統領暗殺

6月●千手観音の仁王門、金剛力士像を町の文化財に指定

7月●新農業構造改善事業に着手

9月●庚塚運動場、信濃川運動公園完成

10月●町長に根津正三無投票四選

12月●橘簡易水道拡張工事完成

昭和55年（1980）

イラン・イラク戦争発生 鈴木善幸内閣成立

山口百恵引退 ジョン・レノン殺される、40歳



庚塚運動場



川西ダム地固め式（横綱北の湖）

3月●林分改良開発事業完了
4月●川西町史編さんに着手
7月●農村総合整備モデル事業フラッシュ施設の整備に着手

8月●仁田農村公園完成
10月●国勢調査人口9883人といに1万人を割る

●第5回町民体育祭

12月●誘致工場(株)ジャルコ操業開始

●白倉簡易水道通水



仁田農村公園

昭和56年(1981)

中国残留孤児、初の集団調査来日

「常用漢字表」決定 福井謙一ノーベル化学賞受賞

1月●56豪雪

4月●議員定数2人削減(20人)

5月●交通事故死ゼロ300日を達成



56 豪雪

11月●「町史こぼれ話」第1集刊行

●合併25周年記念式典

●町民憲章と交通安全憲章を制定

●川西町臨時行財政調査会設置

昭和57年(1982)

教科書検定、国際問題化

反核東京行動、40万人参加 中曽根康弘内閣成立

4月●知的障害者更生施設なかまの家完成

6月●川西中学校木造校舎改築工事に着手

9月●川西米大農作・上位等級米率県下一(97.5%)

●唐塚運動場にナイター施設完成

10月●体育協会が優良社会体育団



歴史民俗資料館

体として文部大臣表彰

11月●歴史民俗資料館完成

●上越新幹線新潟〜大宮間開通、浦佐駅前町に駐車場

昭和58年(1983)

田中角栄1審判決、有罪

NHK連続ドラマ「おしん」人気

5月●根津正三町長急逝、町葬を行う

6月●地域休養施設「松葉荘」完成

7月●三代目町長に南雲春雄が就任

8月●移動役場スタート

●川西中吹奏楽部、県大会で金賞

9月●千手小学校花いっぱいコンクール優秀賞受賞



初冬の松葉荘

11月●農協合併10周年、(NHK TVドラマ「おしん」の主演、小林綾子さん来町)

12月●第4次総合開発計画を答申

昭和59年(1984)

NHK、衛星TV放送開始 現行の紙幣発行

植村直己マッキンリー冬季単独初登頂

平均寿命男女とも世界一に

1月●59豪雪、3年ぶり豪雪対策本部設置(8日)

2月●上野小学校に緑の少年団結成

3月●巢鴨文庫スタート

5月●克雪住宅資金貸付制度新設

●故根津前町長の頌徳碑建立

●国鉄が信濃川水力発電再開発

計画発表

8月●橘小学校舎完成

●信濃川架橋位置、取付道路を選定



故根津前町長の頌徳碑建立

●誘致企業、(株)西工業誕生

9月●藤沢集落閉村、記念碑建立

●豪雪にも負けず大農作(7万俵達成)

10月●第6回町民体育祭

11月●東京電力(株)送電線、新新潟幹線完成

●上野小学校創立110周年記念式

昭和60年(1985)

つくば科学万博 日航機、御巢鷹山に墜落

電電公社民営化 阪神タイガース日本シリーズ制覇

男女雇用機会均等法公布

1月●60豪雪(元旦に260cmを記録)

4月●庁内に行財政改革推進本部設置

5月●木落山家清作さん献上米の田植え

6月●ふれ愛パック事業スタート

7月●中子運動場オープン

●大東紡織(株)新潟工場操業

10月●名誉町民藤巻力雄先生死去

●五升苗ダム竣工

12月●行政改革大綱について答申

●町の仲介によりねん糸加工会社(有)トーコー誕生、操業



名誉町民藤巻力雄先生公葬

昭和61年(1986)

チエルノブイリ原発事故

土井たか子社会党委員長に

北京マラソンで児玉泰介2時間7分35秒

2月●農村集落排水事業新設

3月●高倉小学校閉校

●(株)川西工業操業

●越ヶ沢集落閉村

4月●教育委員会に家庭相談係新設

6月●上野小学校舎完成

●母子健康センター閉所

●役場内一部電算スタート

8月●合併30周年記念芸能まつり

●日独スポーツ少年団同時交流で西ドイツの青年3人來町

●松葉莊宿泊客1万人達成

9月●川西高校吹奏楽部、関東吹奏楽コンテスト銅賞受賞

●第19回花いっぱいコンクール、千手小学校最優秀賞受賞

10月●合併30周年記念誌発行、イチヨウ植樹

●体協15周年記念町内一周駅伝大会

●国鉄信工と水力発電第5期工事、覚書を交換

11月●合併30周年記念式典「川西音頭」の発表など

●青少年育成町民会議創立5周年記念講演会（元近鉄バッファローズ鈴木啓示さん來町）

●新十日町大橋着工

12月●角万寺スキー場及び管理棟オープン

昭和62年（1987）

新電電業務開始 大韓航空事件 国鉄民営化

中曽根康弘指名で竹下登首相に
俵万智「サラダ記念日」ブーム

2月●合併30周年記念事業の一つとして海外農業視察団、アメリカ・ハワイへ5人派遣

3月●雑誌「フライデー」が川西米コシヒカリを紹介
4月●「モーターサイクリスト」で第1回雪上モトクロス大会in新潟紹介

●千手・上野・橘地区、都市計画区域として県知事より指定を受ける

●長安寺のブナ林が県の緑地環境保全地域に指定

●新十日町大橋関連道路に着手

●誘致企業、川西ハーネス(株)



工事中の新十日町大橋関連道路



合併30周年記念芸能まつり

操業

6月●町長選挙で南雲春雄再選（無投票）

7月●長者が原遺跡で縄文時代の深鉢の破片などを発掘

●7年の歳月をかけ、町史全4巻刊行

●県がリゾート構想策定、川西も特定地域に第1回モータースポーツ大会、モトクロス場で開催

●川西中学校吹奏楽部、県コンクール銀賞受賞

●JR信濃川水力発電再開発工場開始

9月●異常気象と減反にもめげず4年連続の豊作

●交通死亡事故ゼロ1200日達成

10月●国道404号萩原橋完成

●橋運動場オープン

●フィリピンから花嫁さん3人を迎える

●町行造林500ヘクタール達成、林道3路線全通

●新十日町大橋取付道路の一部を供用開始

●時報チャイムで川西音頭を流す

12月●第4次町総合開発計画答申

●町のイメージカラー（濃い黄緑色）決定
●フィリピンから4人目の花嫁さんを迎える

昭和63年（1988）

リクルート事件発覚 瀬戸大橋開通 ソウル五輪、100m背泳で鈴木大地優勝

1月●15年ぶりに大白倉で伝統行事バイトウ復活

3月●第1回川西雪まつり

●仙田小学校小脇分校閉校

5月●高倉ブナの家（旧高倉小学校）で初めての山菜まつり開催

●交通死亡事故ゼロ1453日でストップ



第1回川西町雪まつり（人間バン馬）

7月●高倉ブナの家にテニスコート・ゲートボール場完成

●誘致企業、川西ハーネス(株)工場を増設

●フィリピンから花嫁さんのお母さん方來町

●保健・地域活性化センター完成（S62、7建設工事に着手）

8月●農業共済事業の郡市合併に調印

9月●田舎とE仲イキイキ・川西体験ツアーに都会から33人の女性参加

●長雨で5年連続の豊作ならず

10月●第7回町民体育祭（雨により中止、勝敗は次回に持ち越し）

●誘致企業、信濃クミ(株)誕生

●川西側で新十日町橋の工事開始

●国道404号洪海トンネル工事開始

●農協貯金100億円達成

11月●仙田郵便局移転

通年●JR水路トンネル工事本格化

平成元年（1989）

昭和天皇崩御、87歳 消費税実施 宇野宗佑内閣成立
海部俊樹内閣成立 美空ひばり死去、52歳

1月●記録的な小雪、最高積雪103cm

●川西中学校吹奏楽部、第12回関東アンサンブルコンテストで銀賞受賞

3月●上野地区集落下水道完成

●「ナイスふ」ど新潟'89食と緑の博覧会「キャラバン隊」表敬訪問

4月●海外研修に助成制度創設

●農業共済事業が郡市一本化

●町税、水道料などを口座振替に

●場外車券売場誘致の取り止め



川西中学校吹奏楽部

5月●庚塚運動場開設10周年記念野球大会
7月●庚塚運動場に全天候型テニスコート完成
8月●町議会議員選挙

●スポーツ少年団結成10周年記念式典
●ふるさと創生1億円事業のアイディア募集

9月●川西中学校吹奏楽部が関東コンクールで銀賞

●秋の収穫、長雨で遅れる

●星名力さん、国際技能オリンピックで銀メダル

●越後善光寺奉賛会の発足

10月●総合体育館ゲートボール場開設、健康づくりシンボルマークを発表

平成2年(1990)

湾岸危機発生 東西ドイツ統一
文仁親王・紀子さま結婚、秋篠宮に
ペルー大統領に日系フジモリ氏

1月●ふるさと創生事業4案(ふるさと広場造成、人材育成基金設置など)にまとまる

2月●幼稚園、小・中学校を贈う総合的な給食センター完成

●町消防団、日本消防協会から優良表彰

3月●町民の投票で川西八景が決定

●山崎博先生による「かわにしの昔話」発刊

4月●旧仙田小学校小脇分校、広井学園小脇園として開設

5月●川西スタンプ会設立記念式典、町の花「山ゆり」でスタート

●新十日町大橋の名称、妻有大橋に決定

6月●小千谷第2発電所竣工式

7月●高校野球県大会で川西高校ベスト16

8月●野口大原地区開発20周年記念式典、記念碑建立

●デイサービス事業開始

●県営防災ダム事業「坪山ダム」起工式

●農協給油所オープン

9月●ふるさと創生事業として、夢フライト事業実施

(1800余人が夢フライト)

●日照りの中での豊作、上位等級米比率県下でトップ

9月●議会で西山スポーツランド開発計画構想が議題に

10月●西山開発地権者協議会発足

11月●県道小千谷十日町津南線の千手橋完成

●第1回町民文化祭「かわにし90」開催

12月●県道小千谷大沢線の西山橋完成(H元・6架け替え工事に着手)

通年●開発計画で話題沸騰(西山開発、野口開発、中仙田開発)

平成3年(1991)

湾岸戦争 長崎雲仙・普賢岳噴火、火砕流で大被害
ソ連邦解体 宮沢喜一内閣成立 千代の富士引退

平成3年(1991)

3月●町で初めて、星名家住宅が国の重要文化財に指定される

3月●川西八景写真コンクール

4月●交通死亡事故ゼロ、948日でストップ

5月●橋運動場照明施設点灯式(H3・5建設工事に着手、H3・12完成)

●東京池袋西武デパート、第7回村の万博'90に初めて川西町参加

6月●24年ぶり投票による町長選挙、南雲春雄3選

●町議会議員補欠選挙

7月●塩辛工場団地誘致、阪東電機(株)進出

●ナカゴグリーンパークオープン(H2・7造成工事に着手)

8月●第18回日独スポーツ少年団同時交流事業実施、



町民1,800余人が夢フライト

スポーツユース12人
来町

9月●誘致企業、阪東電機(株)建物で操業

●業者が田戸に産業廃棄物処理場を造成、話題騒然

●長雨による米の大幅減収

10月●県営防災ダム事業「長福寺ダム」起工式

●体育協会20周年記念式典

●商工会30周年記念式典

11月●川西中学校創立30(統合15)周年記念式典

●第1回町生涯学習推進大会開催

●なかまの家10周年記念植樹

●千手地域機械施設利用組合、日本農業賞の県代表に

平成4年(1992)

PKO法成立 山形新幹線開業

アルベルビル冬季五輪 バルセロナ五輪

3月●千手地域機械施設利用組合、日本農業賞大賞を受賞

4月●全国一斉に、農協の愛称「JA」に

5月●8年の歳月をかけ、妻有大橋開通

6月●ふれあいの里づくり塾発足

7月●県道小千谷十日町津南線、改良整備促進期成同盟会発足

●町土地改良区創立40周年記念式典

●ナカゴグリーンパーク1周年を迎え、利用者2万人を突破



妻有大橋渡り初め



日本農業賞大賞を受賞



ナカゴグリーンパークオープン

8月●集落排水処理施設、木落クリーンセンター運転開始（H3・8建設工事に着手）

●旧田代集落、廃村25周年記念碑建立

9月●学校月1週5日制スタート

●名誉町民児玉輝彦画伯死去

●春の低温で心配された作物、平年を上回る集荷となる

●新潟米みのりの秋フェスティバル開催

10月●川西中学校、コンピュータ教室設置

●第8回町民体育祭

11月●観光宣伝事業一環として観光年賀ハガキを作成

平成5年（1993）

細川護熙連立内閣誕生 徳仁皇太子・雅子さま結婚

1月●地域医療の拠点、国保診療所完成（H4・6建設工事に着手）

●老人デイサービスセンター

の名称、ファミリー川西に決定

4月●土曜閉庁開始

●老人デイサービスセンター

オープン（H4・8建設工事に着手）

5月●仮称古峰橋の名称、孫左衛門橋に決定

6月●広域林道中魚沼丘陵線起工

7月●特定環境保全公共下水道事業、管路施設工事起工

8月●5年の歳月をかけ、仮称大白倉トンネル貫通

●定数削除の町議議員選挙、18議席決まる

9月●かつてない冷夏、稲作大幅減収、魚沼の作況⁸⁹

10月●仙田小学校創立20周年記念式典



国保診療所完成



仮称大倉トンネル貫通

●新焼却場（十日町市川西町衛生施設組合）完成、稼動（H4・3建設工事に着手）

11月●仙田コミュニティセンター完成

●17年の歳月をかけ、農村総合整備モデル事業完了

●JA新潟川西農協合併20周年

12月●JR信濃川水力発電工事に伴う、浄水処理施設完成（H5・4建設工事に着手）

平成6年（1994）

松本サリン事件 イチロー、シーズン最多安打

羽田孜内閣成立 村山富市内閣成立

1月●千手小学校創立120周年記念式典

3月●白倉小学校120余年で閉校

●幼稚園廃止、27年の歴史を閉じる

●町農政審議会、長期構想を答申

4月●特別養護老人ホーム、あかね園オープン（H5・6建設工事に着手）

●松葉荘、第3セクターで運営開始

●都市計画の用途地域と街路を指定

●7月●川西町スポーツ少年団、全国表彰



特別養護老人ホーム「あかね園」

●記録的な猛暑、農業用水確保におおわらわ

●焼却場と霧谷埋立地への持ち込みごみ有料化

●かわにし芸術の夏'94藤巻秀正、星襄一の世界が作品展開催

8月●ナカゴグリーンパークでレゲエコンサート開催

9月●県営防災ダム事業「坪山ダム」定礎式

●千ばつにもかかわらず魚沼の作況は104のやや良

10月●観光交流会館オープン、名称サンパレス・ナカゴに決定

●上野小学校創立120周年記念式典

●孫左衛門橋完成、町道山野田下平線全線開通

●JA新潟川西、米飯パック事業に着手

●ボランティアグループ山ゆりの会、厚生大臣表彰

12月●JRと克雪用水関係の覚書を交換

平成7年（1995）

オウム真理教一連の事件 阪神・淡路大震災

野茂大リーグで活躍

2月●温泉自噴（3日）

●星名家住宅で映画「蔵」のロケ、10月に上野で上映会

3月●県道小千谷十日町津南線の北沢橋完成

●JA新潟川西無菌米飯加工所オープン、米飯パック義援物資として阪神・淡路大震災被災地へも送られる

3月●町消防団に消防長官から竿頭綬

●川西中学校体育館完成（H6・5建設工事に着手）

●中央管理棟川西町土地改良区事務所竣工（H6・8建設に着手）

4月●川西中学校体育館のこけら落としに、VリーグのNECレッドロケッツ来町

●サンパレス・ナカゴで春らんまんコンサート

●終戦50周年川西町戦没者追悼式

5月●千手温泉仮設共同浴場オープン

●特定環境保全公共下水道一部供用開始

●誘致企業、株中島電機川西工場操縦

6月●かわにし芸術の夏'95―雪国の芸術―魚沼の作家展開催

●千手温泉仮設共同浴場1万人達成



オープン一番ぶろに浸る皆さん

- 町長選挙、南雲春雄4選
 - 役場内に行政改革推進本部を設置
 - 7月●7・11水害により各地で被害続出
 - 8月●仙田地区に農村アメニティモデル育成支援事業を導入
 - 9月●仙田地区農業集落排水処理施設、一部供用開始（H6・8建設工事に着手）
 - 交通死亡事故多発、緊急対策実施
 - 長雨による日照不足、魚沼の作況は100の平年並
 - 核兵器廃絶平和の町宣言
 - ウィーンの風コンサート
 - 10月●千手観音仁王門落慶法要
 - 食生活改善推進委員協議会が厚生大臣表彰
 - NHKラジオ「真打ち競演」公開録音
 - 11月●衛生施設組合、し尿処理場のリニューアルに着手
 - ミュージカル「男のロマン・女のフマン」公開、1100人が鑑賞
 - 12月●第5次総合開発計画を答申
- 平成8年（1996）**
- 橋本龍太郎内閣成立 アトランタ五輪
- 1月●米スペースシャトル、エンデバーに町章が搭載される
 - 除雪ボランティア「夢雪隊」初出動
 - 10年ぶりに豪雪対策本部設置（1月29日～2月2日までの日降雪量の累計334cm）
 - 3月●第10回川西雪まつりに県内初「逆バンジージャンプ」登場
 - 4月●思いがけない降雪（3日に33cm、12日に14cm）春耕に影響
 - 5月●県営防災ダム事業「長福寺ダム」定礎式
 - 特定環境保全公共下水道の中継ポンプ場完成、通水式

- 6月●山野田原住宅団地24区画分譲開始
 - 三箇地区集落排水処理施設完成、一部供用開始（H7・5建設工事に着手）
 - 庚塚野球場リニューアル記念招待親善野球大会（H7・7建設に着手）
 - 7月●新潟アジア文化祭'96に「味わう・アジアかわにし篇」で参加
 - 9月●ナカゴファミリーゴルフ場オープン（H7・7建設に着手）
 - 誕生40周年記念式典
 - 特定公共賃貸住宅山野田東部団地完成（H7・11建設に着手）
 - 国道403号渋海トンネル供用開始
 - 10月●第9回町民体育祭
 - 川西高校創立20周年記念式典挙行政
 - 町体育協会が記念誌「二十五の歩み」発行
 - 11月●文化・産業の祭典「第1回かわにし自満祭」開催
 - スーパースーパー人劇団「かわにし夢きやらばん」の自主演劇『真説・コシの白雪姫』を初演
- 
- かわにし夢きやらばんの初演劇
- 平成9年（1997）**
- 香港返還、155年の英統治終わる
- ダイアナ元英皇太子妃がパリで自動車事故死
- 1月●雪のない正月となる
 - 2月●町の観光ポスターが県のコンクールで最優秀賞
 - 美しい日本のむら景観コンテストで小白倉集落が農林水産大臣賞
 - 3月●交通安全協会女性部が誕生
 - 4月●雪下ろしボランティア「夢雪隊」に小さな親切実行章
 - 藤沢熊野社、田戸十二社の二本杉が町の指定文

- 化財に
- 6月●ブナの二六公園で「ウェルカム・ビッグコンサート」開催（次年から「千年の森コンサート」）
 - 日野皓正を招いてジャズナイト開催
 - 第1回町長杯パターゴルフ大会
 - 7月●大地の芸術祭に向けてワークシヨップ開催
 - 坪山防災ダムかんがい貯水量に到達
 - 東京原宿の「ネスパス」で地域の情報を発信
 - 8月●町議会議員選挙
 - 最大風速37mの突風で住宅の屋根が吹き飛ばなどの被害
 - 克雪管理センターが簡易宿泊施設に改装
 - 町卓球協会が文部大臣表彰
 - 11月●中山間地域総合整備事業（仙田地区）着手
 - 兵庫県川西市、奈良県・山形県・新潟県の各川西町で構成する全国川西会議（ネットかわにし）発足
 - 角万寺スキー場付近でブナの植林
- 平成10年（1998）**
- 冬季オリンピック長野大会開幕 小淵内閣成立
- 中国国家元首の初来日、江沢民主席
- 2月●消防署西分署に電動付ホースカー装備の最新鋭消防車を配置
 - 奈良県川西町の青年団一行が来町し交流を深める
 - 3月●長岡造形大学学生を中心に「白倉自由学校」開催
 - 4月●西永寺にデイホーム「ひだまりの家」開設
 - 5月●卓球交流事業で中国黒龍江省から王コーチ来町
 - 7月●味わう・アジアかわにし篇開催
- 
- 千年の森コンサート

●越後妻有郷8万人のステキ発見実施
8月●卓球交流事業で中学生・高校生が中国黒龍江省へ

●ロンドンAスクールの学生と白倉地区交流
9月●台風7号通過により、住宅など36戸に被害
●川西高校西側に町営住宅（みのり団地30戸）の建築着手

●千手まつりでみこしの競演
10月●森林体験教室でブナの苗木2500本を植林
11月●賑わい空間創出事業住民検討委員会が報告書を町に提出

●全国川西会議（ネットかわにし）の4市町で災害時の相互支援活動に関する協定締結

●総合体育館で打楽器演奏集
●『鼓童』の公演

●岩瀬集落で始めての「そば祭り」
●仙田小学校で「大倉修吾講演会」
●元町新町地区農業集落排水処理施設が完成

平成11年（1999）

●国際保護鳥トキの国内人工孵化に初成功
●東海村の核燃料再処理施設で臨界事故
2月●松葉荘の経営者を公募
3月●国の経済活性化策に基づく「地域振興券」を交付

4月●みのり団地の入居始まる
●屋内体育施設「スポーツパレス川西」が完成

5月●中国黒龍江省ハルビン市から卓球交流団来町

●「千年の森コンサート」にオカリナの宗次郎出演
●中子節黒城連絡道開通



全国川西相互支援の締結



中子節黒城連絡道開通式

●節黒城跡キャンプ場に里創プラン事業によるコテージなどが完成

6月●町長選挙で田口直人が当選（無投票）

7月●南雲春雄町長が4期16年の任期を全うして勇退

●田口直人町長が就任

●フォトコンテスト「越後妻有8万人のステキ発見」開催

8月●川西町スポーツ少年団のキャンプが20周年に

10月●町内30か所で介護保険制度説明会開催

●中屋敷住宅団地（美咲町）の分譲始まる

11月●賑わい空間創出事業の基本構想まとまる

●東京表参道ネスパスで「えん結びの市」開催

平成12年（2000）

シドニーオリンピック開催 介護保険制度スタート

白川秀樹がノーベル化学賞受賞 森内閣成立

1月●仙田小で伝統食「寒九のころも」づくり挑戦

3月●山形・奈良の川西町民を招いて「川西三昧」開催

4月●助役に押木久之、収入役に根津昭一が就任

5月●賑わい空間シンポジウム開催

●まちづくり塾「川西結」第1回交流協議会開催

●十日町市南鑑坂地内に新しい火葬場建設着手

●中国ハルビン市から2回目の卓球交流団来町

6月●「株式会社まちづくり川西」が創立

●川西葉たばこ生産組合が県知事賞を受賞

●上野の西永寺が再建150年記念事業実施、国の登録文化財に

7月●「越後妻有大地の芸術祭2000」が開幕（9月まで）

●長福寺ダムしゅん工

●奈良県川西町の児童など41

人が体験交流に来町

8月●高齢者コミュニティセンタ

ーに「あったかホームたちばな」オープン



大地の芸術祭作品「森の番人」

●仙田地域などで「妻有から見た世界」開催

●ナカゴグリーンパークでミニSL試乗会

●大地の芸術祭作品鑑賞ツアー実施

●ペットボトル等再生処理施設が稼働

9月●「千手露香」が町の無形文化財指定に

10月●第10回町民体育祭

●節黒城跡キャンプ場のコテージC棟がグッドデザイン受賞

●川西町産ぶどうのワインが発売開始

11月●「川西結」の活動で新潟大学の学生が集落調査報告

●ナカゴでチェロの「小春日コンサート」

12月●上野小学校前に信号機を設置

平成13年（2001）

アメリカ同時多発テロ事件

内親王殿下愛子様御誕生

1月●小正月にドカ雪、5年ぶりに豪雪対策本部を設置

2月●生徒のアイデアを生かした川西高校前バス待合所が完成

●県が市町村合併のパターンを公表、十日町地域には6市町村と4市町村の2案が示される

●第5次川西町総合開発計画（後期基本計画）答申

3月●第4次川西町行政改革大綱答申

●神楽剣の舞など野口芸能が町の無形文化財に

4月●新装なった十日町地域斎場が使用開始

●総合体育館でNHKラジオ公開番組「ひるの散歩道」公開録音

●上野郵便局が上野小学校北側に新築オープン

●町のホームページ開設

●町出身の平野壮弦氏が2002年サッカーワールドカップの公式エンブレム毛筆バリエーション制作

6月●生ごみ堆肥化試験事業がスタート

7月●仙田体験交流館・道の駅「瀬替えの郷せんだ」がオープン

●第1回花のアートコンクール開催

8月●第83回全国高校野球選手権大会（甲子園）に十日町高校が初出場

●町議会議員選挙、18議席決まる

●「越後天神ばやしワールド」開催

●新装される千手温泉の愛称が「千年の湯」に決定

10月●水泳シドニーオリンピック銀メダリストの中村真衣選手、川西中学校で講演

11月●「白倉自慢会」が15周年、「かわにし自満祭」は6周年に

●千手温泉「千年の湯」がグランドオープン

●沢口養豚場が第31回日本農業賞新潟県最優秀賞に

●展示場も兼ねた橘小学校前バス待合所完成

平成14年（2002）

初の日朝首脳会談、拉致被害者5人帰国

ノーベル賞、物理学賞小柴昌俊、化学賞田中耕一

1月●市町村合併に関する住民アンケート実施

2月●無農薬有機栽培に取り組む団体「NPO魚沼ゆうき」設立

3月●町内4会場で「市町村合併についての懇談会」開催

●大相撲のNHK実況アナウンサーを招いて「大相撲講演川西場所」開催

●川西町誕生45周年を記念して「かわにし」の口



仙田体験交流館オープン



泉質で人気の千年の湯

ゴマーク制作

4月●JA十日町上野支店に知的障害者授産施設「なごみの家分場うえの」が開所

5月●高円宮殿下をお迎えして「地球環境米米フォーラムin越後妻有」開催

●「光の館」で結婚式

6月●星名家雪室が国の登録文化財に

●仙田農村公園のつり橋「河童の吊橋」と決まる

●千年の森コンサートで宗次郎2回目の出演

8月●にぎわい空間「コミュニティ施設づくりワークショップ」始まる

9月●生ごみリサイクル活動を進める「有機の里川西」が新潟県環境賞受賞

●奈良県川西町の町民劇団「コスモス」が来町、「ぼたん雪」を上演

10月●川西町土地改良区が創立50周年式典開催

●日本で最初のオートバイ国際大会「ジャパンエ ندューロ」開催

●節黒城築城650年祭開催

●中山間地域総合整備事業が完了し、河童の吊橋渡り初め

●町内21会場をまわる「市町村合併住民懇談会」始まる

11月●上野機械施設利用組合が第32回日本農業賞で新潟県代表に

●千年の湯がオープン1周年で25万人達成

12月●岩瀬に農産加工施設「しぶみ工房」オープン

平成15年（2003）

イラク戦争勃発 巨人松井、メジャーリーグ挑戦

1月●元旦卓球大会がNHK生放送で全国に情報発信

●新エネルギービジョンまとまる

●十日町市、川西町、中里村、松代町、松之山町の5市町村で合併任意協議会設立

●川西町スポーツ少年団が優秀団として全国表彰

3月●コミュニティ施設の基本構想まとまる

●環境基本計画・堆肥センター基本計画答申

●上野機械施設利用組合が第32回農業大賞で全国特別賞

●南原保育園が閉園

4月●賑わい空間エリアに千手郵便局が新装オープン

●合併協議会で新市の名称について議論白熱

6月●町長選挙で田口直人が再選（無投票）

●NHK「おいしい、にっぽん」今日はとことん新潟県」の1000人メッセージを川西町でも収録

7月●南北朝の秘史を収めた「川西町の板碑」を刊行

●広域6市町村で第二回大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ2003」が開幕

●大地の芸術祭に関連するイベントや関わった人などがテレビ等で全国に紹介される

●賑わい空間エリアに長屋型店舗がオープン

●新市の名称案を公募することを決定

8月●「天神ばやしワールド2」をナカゴグリーンパークで開催

●大地の芸術祭関連イベント



高円宮殿下、光の館を見学



ジャパンエンデューロ2002



大地の芸術祭ホワイトプロジェクト



第1回合併任意協議会

トが多数開催され、「こへび隊」が活躍する

9月●冷夏と秋の長雨で稲刈りが大幅に遅れる

●市町村合併を住民の目で考える「合併を考える会」が住民有志により結成、活動開始

●橋地区ビジョン検討委員会による「橋を知るハイキング」開催

10月●千手・上野・橋の各小学校が130周年、仙田小学校が30周年の記念事業実施

11月●第8回かわにし自満祭開催

●岩瀬と木落でそば祭り開催

12月●千手温泉・千年の湯がオープン2年で入館数50万人を達成

平成16年（2004）

アテネオリンピック開催 台風上陸が最多の10個、集中豪雨でも被害

1月●1月15日が成人の日でなくなったことによる小正月行事の混乱が表面化

●新潟県広報コンクールで「広報かわにし」が広報の部、写真の部で2年連続入選

2月●山形もがみ国体でバイアスロンリレー1位、スベシャルジャンプ5位など川西勢が大健闘

●上野小学校6年生がBSN小中学校ホームペー ジコンテストで最優秀賞受賞

3月●第18回かわにし雪まつりは、地区別ほんやら村など新しい形で開催

●新市の名称案が「十日町市」と「美雪市」の間で合併協議会委員による投票が行われ、14対12で「十日町市」に決定

●戸籍の電算システム稼働

4月●十日町広域圏合併協議会（法定協）発足、県知事に届出

●合併を考える会が住民投票条例制定の署名活動展開

5月●アテネオリンピックの金メダル候補、レスリン

グの浜口京子選手らが来町

●全国初の工法で小白倉橋の架橋が始まる

6月●ジャズヴァイオリンの寺井尚子を招いて第7回目千年の森コンサート開催

●川西町始まって以来というクマの出没が頻繁に見られる

●木落地内で有機センターの本体工事に着手

●松葉沢ダムの定礎式挙行

7月●賑わい空間エリアに健康増進施設「ひだまりプール」がオープン

●町議会で直接請求に伴う

市町村合併の可否を問う住民投票条例制定を否決

●5市町村の合併協定調印式を挙行

●千手中央コミュニティセンターが起工

●梅雨前線豪雨により農地や道路に多大な被害

8月●あかね園増築工事起工、32床増床へ

●賑わい空間エリアに農産物直売施設「千年の市じろばた」がオープン

9月●県議会で十日町広域圏の市町村合併を議決

10月●川西町として最後の町民体育会開催

●5市町村社会福祉協議会が合併協定調印

●23日午後5時56分、マグニチュード6・8の直下

型地震が新潟県中越地方を襲う。川西町では震度6弱を2回記録し、住宅

などの建築物のほか道路や上下水道などライフラインが壊滅的被害を受ける。気象庁は「新潟県中

越地震」と命名。



地震で大きく陥没した国道252号



ひだまりプールオープニングイベント

●災害対策本部を中心に被害状況の把握、初期復旧事業の着手、救援物資の調達や配給、避難所

対応などを実施。ボランティアや住民の自主的活動も多くみられた

11月●住宅相談など被災者の支援対応始まる。住宅の被害調査が本格的に行われる。新潟県は「新潟

県中越大震災」の呼称を使う

●配食ボランティア「福寿草」が25年間の活動を評価され県知事表彰

12月●「千年の森コンサート」が妻有ショッピングセンター環境大賞受賞

●仮設住宅への入居始まる

●町内各地で復興イベントや支援事業実施

平成17年（2005）

19年ぶりの豪雪 平成の大合併で市町村数1000減少へ

1月●四元奈生美プロを招いて第20回元旦卓球大会開催

●5年ぶりに豪雪対策本部を設置

●除雪ボランティア「夢雪隊」が毎日新聞新潟支局長賞受賞

●新潟県広報コンクールで「広報かわにし」が最優秀県知事賞受賞

2月●積雪が344センチに達し、19年ぶりの豪雪となる

●26日、閉町式を合同竣工式とともに挙行

3月●第19回かわにし雪まつりを開催

4月●1日、これまでの十日町市、川西町、中里村、松

代町、松之山町の区域で新十日町市が誕生



閉町式で町旗を降納

大工殺した上野村

盆踊り唄に、「大工殺した上野村 百両のカタに大損だ」という文句がある。上野村で若い大工を殺した事件があり、その弁償金を遺族に支払うため、村では大変な骨折りをしなければならなかった——という意味である。

安永三年（一七七四）に起こった事件で、具体的な犯人があらぬまま、急病による事故死ということと結末がつけられた。元町の長安寺で庫裡の改装工事が行われ、出雲崎から久米七棟梁を頭に計八人の大工が、長い間泊まりこみで仕事を進めていた。

出雲崎の尼瀬町は、宮大工といわれる寺院・神社建築を専門にする人たちが揃っていた。当地方では、十日町市土市の観泉院や中里村の十二社などが、尼瀬町の大工によって建てられている。

七月七日夜のこと、大工仲間治三郎と常七は連れ立って上野へ出掛け、酒屋で一杯飲んだあとに、ちよっと寄っていきたくところがあるといって別れた常七が、遅く帰っても帰っていない。

胸騒ぎでもしたのか、心配に

なつて迎えに出た治三郎は、道沿いの田んぼの中に倒れている常七を見つけ、びっくりして棟梁に知らせた。

連絡を受けた上野村庄屋喜左衛門など村役人も駆けつけ、真夜中であるのに、大騒ぎとなった。

翌朝には、棟梁からの急便が尼瀬町へ走り、山谷（十日町市）の酒井大肝煎には上野村庄屋から届書が差し出された。さらに大肝煎からは、柏崎町大久保にある白河藩陣屋へも事件発生のお知らせが送られる。

おらうらの話

（第四十六回）

上野 上村 政基

この頃の山谷組二十か村は、白河藩（福島県白河市）の預り領であった。

事件発生から終結するまでの関係文書が二〇数通残っているが、具体的な犯人を想像するような部分は一行も書かれていない。

しかし、以前から、二十三歳の常七が上野の娘と仲良しになつていて、それを知った村の若い衆たちがひどく腹を立て、「やつつけてしまえ」などと言

つていたことはすでに評判になつていたので、「若い衆がやつたのではないか」と思う気持が陰で村中に広まったけれども、大変なことであるから、誰もが口を閉ざして、成り行きを恐る恐る見ているばかりであった。

十七日に、上野村役人・久米七棟梁・尼瀬町関係者などが柏崎役所へ呼び出されて取調べを受け、二十一日には現地調査が行われた。

この間、常七の遺骸は大桶に塩詰めになされて長安寺墓地に置かれた。

総括的な取調べは新町新田の園成寺で行われたが、若い衆たちを含め村人一七五人が呼び出され、ひとりひとりが個別に訊問されている。大変な一日であった。

いっさいが終わったのは二十四日であり、出雲崎代官所・柏崎陣屋の役人たちは、二十五日朝に立出した。

結果は、暴力などの殺人でなく、急病などの発作で亡くなったということと終了した。しかし、表面には出ていないが、常



今の長安寺 本堂と庫裡

（領）で、上野村は白河藩預りであつて、双方の役人たちには格の違ひがあるので、出雲崎側に有利な扱いがあつたという話も伝えられていた。

上野村では、一時的な借金をしたり、共同山を売ったりするなども、近郷の村々に対しても、大きい顔をするようなことはなくなつてしまつた。（若い衆たちの信用はガタ落ちである。）

元町や千手・仁田などに伝えられているいろいろな話を傍証にすると、若い衆たちの集団暴行であつたことが十分に想像される。

強く秘密にしていたことではあるけれども、事前謀議のことやら、暴行の頭取やら、もちろん娘の話までが、地元では具体的に伝えられていた。

その後整理された資料によると、費用いっさいで二百両ほどが計算されている。

また、事件の場所は西浦縄手（なわて）と述べてあり、常七が倒れていたところの土橋を、その後バッチョ橋と呼んだ。バッチョは番匠で、大工のことである。昭和

三十年代の基盤整備で消えた。

本稿の詳細は、川西町史「町史こぼれ話（第八集）」を参照されたい。

河童が教えた薬

木落の三島神社境内に河伯大明神の石塔がある。

「河伯」というのは、中国の古い時代に、揚子江を根拠にしていた水軍の一族であるといわれるが、日本では河童のことを指している。

この石塔は、最初の本落渡しの川辺に立てられていたものであるというから、川神様であったのかも知れないし、また川神様のお使いをしていた水神子であったかも知れない。

当地方では、河童のことを、シュウジンコ・スージンコなどと呼んでいたが、水神子の意味であるらしい。また、河太郎といった話も耳にしたこともあるが、何処の話であつたろうか。

信濃川の川岸で水浴びしたり遊んだりしている子どもたちが、河童にさらわれて水死することがあったので、親たちは、水辺に行つてはならないと厳しく教えていた。川に引きずりこんでシリコダマ（尻子玉）を抜いて食ってしまうのだと言っていた。

河童は胡瓜が大好きで、腹いっぱい食って機嫌のいいときには、河原で相撲をとったり、里芋の葉を頭にかぶって、ワイワイ踊ったりするともいい、外丸の辰ノ口に祀っている水神塔には、胡瓜を供えてお祭りをする。

あるとき、寺ヶ崎の惣右衛門（長右衛門ともいわれるが）が川縁りの畑で仕事をしていたと、芋を盗み食いしようとしてやっ

てきた河童を見つけたので、この泥棒野郎と追っかけたところ、腹が空いていて逃げる力が弱っていたのか、簡単に掴まってしまった。

縄でギリギリと縛りつけ、他の河童仲間への見せしめにもなるからと、太い棒で叩きつけようとしたところ、これからはイタズラや盗み食いなど絶対にしないから、何とか勘弁してくれと涙を流してあやまるので、可哀想になって、二度としないよう約束するならー

■

と、許してやった。

夜になってから、家の雨戸をホトホト叩く音がするので、ぞいてみると、河童の親子が揃ってあやまりに来ており、助けてもらったお礼にということ、アイヌという打身の薬を作る方法を丁寧に教えて帰っていった。それから、河童の害はピタリと止んだし、教えてもらった薬を足腰を痛めたところに張ると大層効き目があって、大勢の人たちに役立った。

小白倉の子どもた

ちが、シュウジンドウ遊びをしていたと聞いた。

ちよつと小高い崖の上で何人かが順に手をつなげ、先端の子が片足を下へさげると、崖の下にいる子がその足にとびついて掴まえようとする遊びで、「シュウジンドウに足一本呉れようかー」と、声を揃えて歌ったものだという。

シュウジンドウは河童のこと、水気のあるところにいるから、そういうところへ子どもは行つてはならないと教えられていた。

アツキ洗い

秋の夕陽が西の空を真赤に染めるころ、いい気になって遊び回っていた子どもたちは、そろそろ家に帰らなければならぬ。

でも、終わりに近くなればなるほど、遊びは面白さを増してくるのが、いつもの例である。

もう少し、もうちよつとだけと跳びはねている耳に、大きな子から、「アツキ洗いが出るぞー」と声がかかる。

日が暮れて、あたりが暗くなつてくると、川沿いの藪の中に隠れているアツキ洗いが出てきて、遅くなった子をさらっていく。

アツキ洗いがーと思うと、背中がゾーッと冷えて、足も固くなつてしまう。遊びも途中で投げ出して、誰も彼も家へ向かつて駆け出す。

秋の陽は釣瓶落しというように、太陽が西の山に隠れると、アツという間に暗くなってくる。風がサワサワと藪を揺ると、その陰にアツキ洗いがいるように思えて、背中に負ぶった赤ん坊をしつかり押さえて、懸命に走る。

アツキはアズキ（小豆）のこと、アツキ洗いは暗い藪の中に隠れていて、子どもをさらって食べてしまう魔物である。

「アツキ洗おうか、子をとって食おうか」とか、「あの子をとろうか、この子を食おうか」と歌いながら、川でザツクザクザク、ザツクザクザクと小豆を洗う。

ぐずぐずして後に残った子をさらって川へ引き込み、頭からかじつてしまうのだと、いわれていた。

ある大人は、アツキ洗いはイタチの「コをワイタ」ものだと説明していた。「コをフク」というのは、長生きしたイタチが化け物のようなったということ、子どもたちには、想像するだけで、大変に怖いものであった。



真剣に考えよう 合併について

38

いよいよ「新十日町市」が スタートします

シリーズ「真剣に考えよう合併について」は、平成十三年十一月の第一回から『市町村合併』について住民の皆様とともに真剣に考え、議論してきましたが、四月一日の「新十日町市」のスタートにより今月号をもって終了します。

この間、できるだけ多くの情報を住民の皆様提供できるように努めてきました。また、皆様からいろいろなご意見をいただきました。この場を借りて御礼を申し上げます。

いよいよ新市がスタートします。自ら選んだ合併に勇気と希望をもってスタートしたいものです。

です。（関連記事38ページ）

市長職務執行者は 中里村長に決定

二月二十一日、松代町総合センターにおいて第八回協議会が開催されました。協議会で報告、協議されたことについてお知らせします。

◆市長職務執行者決定の報告について

新設合併の場合、新市の市長は合併後五十日以内に選挙されることになっていますが、それまでの間、旧市町村長のうちから協議で定めた者が市長の職務を行うこととされています。

協議の結果、山本茂穂中里村長に決定したことが報告されました。

◆自治地域組織について

地域自治組織について、地域協議会の役割、市長の責務などについて提案があり、条例案とともに協議会で了承されました。《付属機関として設置する地域



協議会の役割

①地域協議会の権限として審議する中に「新市の建設計画」を入れ、この協議会が新市建設計画の監視役となること。②十日町市では地区振興会の代表からなる連絡協議会的組織を設置し、町村では支所単位に住民代表からなる地域協議会を設置し住民の意見が行政に反映できる仕組みをつくる。③行政と一体となって地域づくりができるよう住民を牽引する役割を担う。

○子どもからお年寄りまで安心・安全・元気に暮らせる社会づくり
○人・自然・産業と触れ合える、もてなしの心で迎える体験交流づくり
○公・民の協働と相互扶助の精神に基づいた、行財政運営のしくみづくり
○雪・自然・農が織りなす温もりと躍動のまち大地
新市の基本理念を基に、地域の個性や資源を活かしつつ課題を克服しながら実現していく「新市の将来の姿」を示しています。

◆基本目標

○地域に誇りと愛着を持つ創造性豊かな人づくり

○雪国文化や地域資源を活かした、活力ある産業づくり

○緑豊かな自然環境や雪国の風土と調和した、快適な環境づくり

○子どもからお年寄りまで安心・安全・元気に暮らせる社会づくり

○人・自然・産業と触れ合える、もてなしの心で迎える体験交流づくり

○公・民の協働と相互扶助の精神に基づいた、行財政運営のしくみづくり

◆将来像

《雪・自然・農が織りなす温もりと躍動のまち大地》

新市の基本理念を基に、地域の個性や資源を活かしつつ課題を克服しながら実現していく「新市の将来の姿」を示しています。

新市が目指すまちづくり

新市が目指すまちづくり、新市建設の基本方針をもう一度お知らせします。今後のまちづくりの土台となるものです。

◆基本理念

《夢を耕しつづける感動と創造のまちづくり》

新市の将来の姿（夢）を描き、

合併協議会が解散

三月四日、松之山町自然休養センターにおいて第九回協議会が開催されました。平成十六年四月十三日に第一回協議会が

町を閉じ「新しいまちづくり」がはじまります

この市町村合併により川西町は三月末日をもって廃止されることから二月二十六日、川西中学校体育館を会場に『閉町式』が挙行されました。来賓に関根洋祐新潟県出納長、上村憲司県議会議員、柴生進兵庫県川西市長、近隣市町村長らを迎え、約四百人が出席して行われました。

田口町長の式辞のあと、小学生八人による町民憲章の朗読があり、改めて川西町が目指したまちづくりを思い起こすことができました。

式典最後には町旗の降納があり、一抹の寂しさもありましたが、閉町は「新しいまちづくり」へのステップアップであり、地域のさらなる発展に期待するも

開催され、今回の協議会が第九回になりますが、今回の協議会をもって終了になります。協議会では、協議会の解散についても提案され承認されました。

◆合併後の主なスケジュール

- 四月一日
・新市がスタート
- ・本庁及び各支所で開庁式
- 四月四日
・市長選挙立候補予定者説明会
- 四月五日
・市議会議員一般選挙立候補予定者説明会
- 五月一日（執行予定）
・市長選挙
・市議会議員一般選挙



お疲れ様でした合併協議会委員の皆様

○五月三日

- ・統一成人式

◆合併協議会の解散

予定されたすべての協議が終了したとして、平成十七年三月三十一日をもって解散することが承認されました。

新市の行政組織と市庁舎の住所・電話番号をお知らせします

新市の行政組織や業務の概要

については、「新市の生活の概要」として全戸に配布しましたのでご覧ください。なお、本庁と各支所の住所・電話番号は次のとおりです。

【本庁】

千九四八・八五〇一

十日町市千歳町三丁目三番地

電話 七五七・三一一一（代表）

【川西支所】

千九四八・〇一九二

十日町市水口沢十二番地

電話 七六八・三一一一（代表）

【中里支所】

千九四九・八四九二

十日町市上山己二二三番地

電話 七六三・三一一一（代表）

【松代支所】

千九四二・一五九二

十日町市松代三二五二番地

電話 五九七・二二二〇（代表）

【松之山支所】

千九四二・一四九二

十日町市松之山二二二番地

電話 五九六・三二三一（代表）

■合併に伴い保険料、上下水道使用料等が変更になります

合併に伴い保険料や使用料金に変更が生じるものがありますので、その一部をお知らせします。

市町村合併に伴う保険料・上下水道使用料等変更のお知らせ

国民健康保険税

合併前	合併後（４月１日から）	変更の理由等
（医療一般） 所得割 5.54 % 資産割 31.00 % 均等割 23,000 円 平等割 22,000 円	（医療一般） 所得割 6.00 % 資産割 27.00 % 均等割 23,000 円 平等割 22,000 円	・市町村間の異なる税率を調整 ・４月１日から仮徴収（７月から本算定により徴収）
（介護一般） 所得割 0.69 % 資産割 6.00 % 均等割 6,000 円 平等割 3,500 円	（介護一般） 所得割 0.90 % 資産割 なし 均等割 7,800 円 平等割 なし	

介護保険料

合併前	合併後（４月１日から）	変更の理由等
（第１号被保険者分） 基準額 2,900（月額） （普通徴収 年６回）	（第１号被保険者分） 基準額 3,300 円（月額） （普通徴収 年１２回）	・介護施設増築による施設サービスの利用増及び在宅介護サービスの利用増に伴う給付費の増加を加味 ・市町村間の異なる料金を調整 ・４月１日から仮徴収（７月から本算定により徴収） ・保険料は、基準額に対して50%の減額から50%の増額の範囲で、５段階に設定されています。よって、被保険者の所得によって保険料の額は異なります。

上水道使用料金

合併前	合併後（４月１日から）	変更の理由等
（基本料金 １か月） 10 m ³ 以下 2,100 円 （従量料金 11 m ³ から） 1 m ³ あたり 190 円	（基本料金 １か月） 13 mm 10 m ³ 以下 1,510 円 20 mm 10 m ³ 以下 2,000 円 （従量料金 11 m ³ から） 1 m ³ あたり 199 円	・市町村間の異なる料金を調整 ・５月の使用料徴収（冬季精算分）までは旧料金、６月以降は新料金を適用。

下水道使用料金

合併前	合併後（４月１日から）	変更の理由等
使用料 1 m ³ あたり 174 円	（基本料金 １か月） 10 m ³ 以下 1,450 円 （累進使用料金 11 m ³ から） 25 m ³ まで 165 円 50 m ³ まで 175 円 100 m ³ まで 185 円	・市町村間の異なる料金を調整 ・５月の使用料徴収（冬季精算分）までは旧料金、６月以降は新料金を適用。

※この表の金額は、合併協議会における事務事業の調整結果であり、合併後に正式決定されます。

合併後の地域づくり

合併後、地域自治組織を母体にし、将来私たちが住む地域が暮らしやすく
生き生きとした地域となるよう、市民同士の輪を強め、お互いが協力し知恵
を出し合って地域づくりを行います。

地域づくりの目標

- 地域の子どもの育成、お年寄りのケア、災害時の助け合いなど教育福祉全般について、地域の市民の連携の輪を強くし、安心して暮らせる地域をつくります。
- 人・物・情報の交流を活発化させ、文化・経済活動が活発な生き生きとした地域をつくります。
- 地域に住む市民の声が生かされる行政サービスを行うため、地域の市民が集まり、考え、行政に意見をいう仕組みをつくります。
- 地域イベント、友好市町村・郷土出身者団体との交流、公園・コミュニティ施設の維持管理、子育て支援、グループホームなどを住民自ら行える仕組みをつくります。

そのために

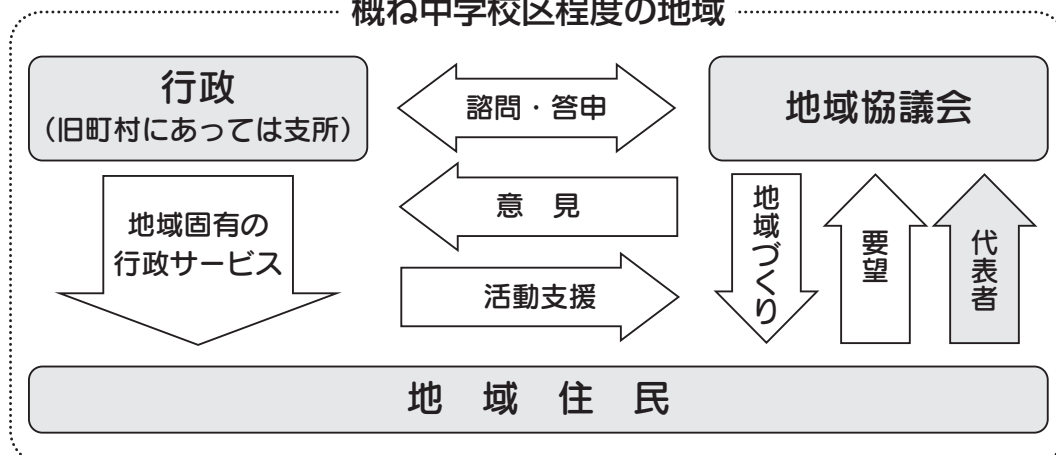
概ね中学校区程度の地域を単位として、それぞれの地域ごとに住民の意見を集約するため、住民代表からなる組織（地域協議会）を設置します。

市は、行政サービスのうち特に地域住民生活に密着したサービスについては地域住民の意見を反映して行うこととします。また、新市建設計画の執行状況についても諮問することとします。

合併当初は現十日町市の区域に一つの組織を設置しますが、将来は中学校区単位を目安に分割し、協働の仕組みができるよう取り組みます。また、地方自治法にうたわれている「地域自治区」へ移行することを目指すとともに、住民が自ら地域づくりの主体となるために、住民組織のNPO化などを検討します。



概ね中学校区程度の地域

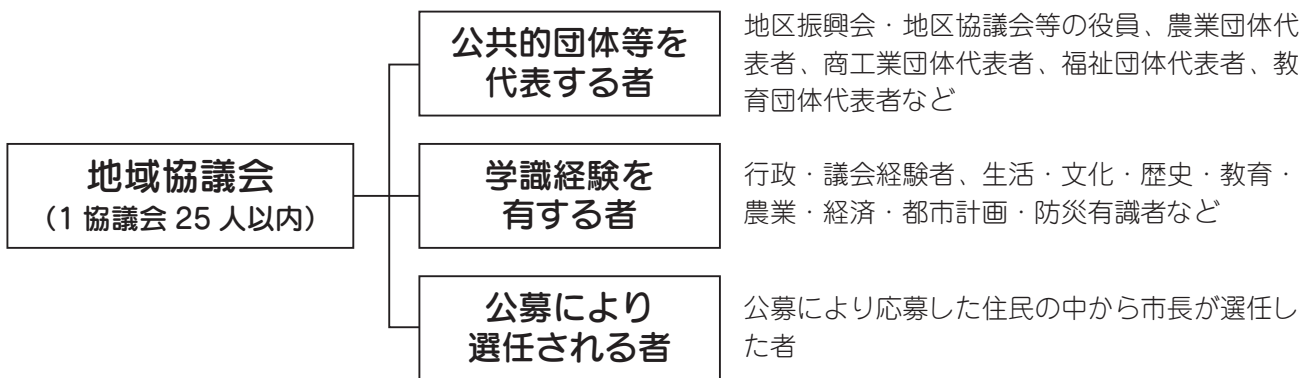


真剣に考えよう 合併について



組織の構成は

当該地域に在住する公共的団体の代表者、学識経験者、公募により応募した者の中からそれぞれの地域の実情に合わせた人数構成に従い、市長が選任します。委員の任期は二年とし、再任は妨げないものとします。会長、副会長その他の役員は委員の互選により選任されます。委員の選任は、地域住民の多様な意見が適切に反映できるよう、合併当初は旧市町村からあらかじめ推薦された者を新市の市長が選任するものとし、その後の委員の改選及び補充は、それぞれの地域協議会の推薦を踏まえて新市の市長が選任するものとなります。



何を審議するのか

市長、行政委員会、支所長等は、これらの項目について事業の執行、計画の策定・変更にあ

たり、地域協議会に諮問し、協議会は市長等に意見をいうものとなります。

新市全体の発展のために

それぞれの地域協議会の代表者等で構成される「(仮称)地域自治組織研究協議会」を設置し、以下のことを協議することとします。

- ① 地域自治組織制度の発展研究
- ② 地域固有事務の全体調整
- ③ 市の支援等共通の要望

合併記念テレビ特別番組のお知らせ
5 市町村の合併を記念して特別番組が放送されます。ぜひご覧ください。

●日 時 平成 17 年 **3 月 26 日(土)**
10:30～11:30

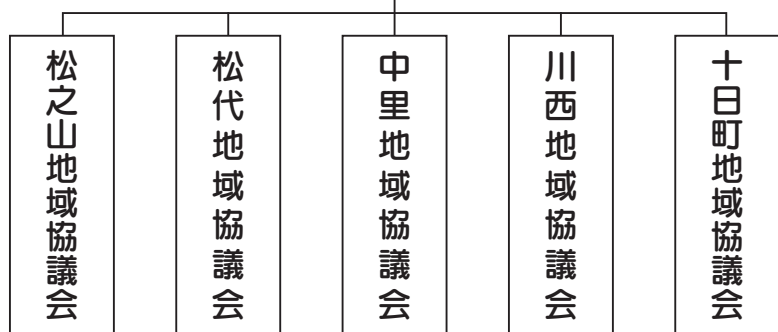
●チャンネル NST (新潟総合テレビ)



諮問・答申

- | | |
|---|--|
| 通常審議される事項 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域づくりの方策 ● 地域振興基金の利息活用 ● 住民と協働で行う行政サービス ● 地域固有の事務事業 | 必要な場合に審議される事項 <ul style="list-style-type: none"> ● 新市建設計画の変更 ● 総合計画の基本構想・基本計画 ● 公の施設の設置・廃止 |
|---|--|

地域自治組織研究協議会 (仮称)



合併に伴う事業の変更等のお知らせ

在宅介護手当

■対象者

要介護三以上の認定を受けた方、六十五歳以上の常時介護を必要とする障害者を在宅で介護している方。

■支給額（月額）

一律 五、〇〇〇円

家庭介護用品支給事業

■対象者

要支援、要介護認定を受けた方で、常時排泄障害がある方。また、病院に入院している方も対象になります。

■助成上限額

〇市民税非課税世帯

一か月 六、〇〇〇円

〇市民税課税世帯

一か月 三、〇〇〇円

高齢者外出支援サービス事業

歩行が困難な高齢の方に対して、タクシー利用料金の一部を助成します。

■対象者

一般の交通機関を利用することが困難な方で、要介護三以上の認定を受けた方。

■助成の方法

タクシー利用券（七〇〇円券）

を一年間に十二枚交付します。

病院通院付き添い援助事業

在宅でひとり暮らしの虚弱で高齢の方等に対し、病院通院付き添い料の援助を行います。

■対象者

六十五歳以上の単身世帯、高齢者みの世帯等で、日常生活上軽易な援助を必要とし、世帯全員の市民税が均等割以下の方。

■援助額

付き添い料の半額

訪問理美容サービス事業

心身の障害および傷病等で理髪店に行くことが困難な在宅の高齢者に出張料の一部を助成します。

■対象者

六十五歳以上で市民税非課税世帯の要介護三以上の認定を受けた方。

■助成の方法

一年間に利用券（二、〇〇〇円券）二枚を限度に交付します。

※詳細については、左記へお気軽にご相談ください。

■問い合わせ

住民福祉課福祉係

☎ 768-4956

市町村合併に伴う身体障害者手帳及び療育手帳の住所表示の書き換えについて

身体障害者手帳について

合併前の住所でも特に支障はありませんので、そのまま所持してください。

療育手帳について

身体障害者手帳と同様に、合併前の住所でも特に支障はありません。定期的な更新時に新しい住所に書き換えます。

※無期判定の手帳については、更新がありませんのでご了承ください。

《書き換えを希望の方》

平成十七年四月一日以降に十日町市福祉課障害福祉係または川西支所健康福祉課障害援護係にお越しください。

■書き換えに必要なもの

- ①身体障害者手帳・療育手帳
- ②印鑑

■問い合わせ

【合併後】

十日町市福祉課障害福祉係

☎ 757-3111

川西支所健康福祉課障害援護係

☎ 768-4956

市町村合併に伴う児童扶養手当の認定等について

市町村合併により、児童扶養手当の支給機関が次のとおり変更になります。

■変更点

これまで、川西町分については「新潟県」が手当の支給事務を行っていましたが、四月一日からは「十日町市」が手当の支給事務を行うこととなります。

なお、現在証書に記載されている手当額は合併後も変更ありません。

■必要となる手続き

現在、お手元にある手当証書（新潟県・桃色）は新市で新しい証書を交付する際に回収しますので、それまで大切に保管してください。

■問い合わせ

住民福祉課福祉係

☎ 768-4956

ですので、しばらくの間お待ちください。

■問い合わせ

住民福祉課福祉係

☎ 768-4956

『精神障害者医療費助成制度』が変わります

四月一日から左記のとおりになります。

①制度の内容

精神科の通院・入院にかかる医療費の自己負担の三分の一を月額一〇、〇〇〇円を限度に助成します。

②対象となる自己負担額の条件

一か月の医療費の自己負担額（通院） 五三〇円以上
※ただし、通院医療費公費負担制度の利用者に限ります。

へ入院 二四、六〇〇円以上

③申請

助成を希望される方は、受給者証の交付申請をしてください。

※持参する物 精神保健福祉手帳または医師の診断書・健康保険証・印鑑・助成金の振込先口座のわかる物

■問い合わせ

けんこう支援課 健康推進係

☎ 768-4958

※四月以降は、健康福祉課になります。

☎ 768-4957

「麻しん・風しん」春期の 受付を開始のお知らせ

今年から「麻しん・風しん」の予防接種実施方法が「集団接種」から「医療機関での個別接種」に変更となります。

また、「年一回」の実施が春・秋の「年二回」実施となります。

医療機関ごとの接種希望数を把握するため申込書の提出をお願いします。

■該当者

五月一日現在、一歳から七歳六か月未満のお子さんと、「麻しん・風しん」にかかったことのない方、未接種の方。

風しんの予防接種は、麻しん予防接種後（今回の麻しん申込み者・り患者を含む）にお願いいたします。

次の方は除きます。

【麻しん】

①麻しんにかかったことのある方。

②麻しん・MMR（麻しん・風しん・おたふくの混合ワクチン）の予防接種を受けた方。

【風しん】

①風しんにかかったことのある方。

②風しん・MMR（麻しん・風しん・おたふくの混合ワクチン）の予防接種を受けた方。

■申込方法

申込用紙を配布しますので、四月一日から十四日までの平日に、母子手帳を持参し川西支所健康福祉課までお越しください。（電話受付は行いません）

■接種日

後日実施日を連絡します。

【麻しん】

五月から六月の指定日

【風しん】

六月から七月の指定日

※本年度から予防接種・乳幼児健診実施の個別通知は行いません。予防接種・乳幼児健診計画表を確認のうえお出かけください。

■問い合わせ

三月三十一日まで

けんこう支援課 健康推進係

☎ 768-4958

四月一日から

健康福祉課 健康支援係

☎ 768-4957



特別障害給付金制度が 始まります

この制度は、国民年金制度の発展過程において生じた特別な事情にかんがみ、障害基礎年金等を受給していない障害者に対して福祉の措置を講じる観点から給付金の支給を行う制度です。

対象者は次のとおりです。

①平成三年三月以前の国民年金制度任意加入対象者であった学生

②昭和六十一年三月以前の国民年金任意加入対象者であった厚生年金保険等に加入していた方の配偶者

※いずれも任意加入していなかった期間中に生じた傷病が、現在、障害基礎年金の一、二級相当の障害の状態にある方です。

給付金を請求する方は、平成十七年四月一日から住所地の市区町村役場で受付を開始します。給付金の支払いは受付した月の翌月分からです。請求する方は四月中に請求書を提出してください。五月分から支給されます。（五月に請求の場合は六分月からの支給になります）

給付金月額は、一級五万円、二級四万円です。

なお、収入や年金受給の状況によって支給が制限される場合がありますので、事前にお問い合わせください。

■問い合わせ

新潟社会保険事務局六日町事務所

☎ 025-770-2211

【訂正】

お知らせ版三月号の二頁、国民年金保険料のお知らせ①中の「現在の保険料二三、二三〇円」を訂正します。

正しくは、
「現在の保険料一三、三〇〇円」です。

印鑑登録証が変わります

市町村合併に伴い現在お持ちの印鑑登録証がカード形式となります。四月一日以降、川西支所において引き替えを行いますので、お持ちの印鑑登録証をご持参ください。引き替えは代理の方でも可能です（委任状等は必要ありません）。

■問い合わせ

住民福祉課住民係

☎ 768-4956

【四月以降】

川西支所市民生活課市民係

☎ 768-4956

四月一日から個人情報保護法が全面施行されます

●誰もが安心してIT社会の便益を享受するための制度的基盤として、平成十五年五月に成立、公布された個人情報保護法が平成十七年四月一日から全面施行されます。

●個人情報取り扱い事業者は、個人情報利用目的を明らかにし、その範囲内で取り扱わなければならない。また、本人の同意を得ずに個人データを第三者に提供することは原則禁止されるほか、安全管理措置、従業者や委託先の監督など個人情報の適正な取り扱いに関するルールが適用されます。

●自分の個人情報については、事業者の開示等を求めることができます。また、個人情報に関するトラブルや疑問は、その事業者に申し出るほか、認定個人情報保護団体や地方公共団体、国民生活センターの苦情相談窓口などで相談いただけます。

※詳しくは、内閣府国民生活局ホームページをご覧ください。
＜<http://www5.cao.go.jp/seika/tsu/kojin/index.html>＞

【税務課からのお知らせ】

四月一日からの税証明の申請、原動機付自転車等の登録、廃車手続き、各種手数料についてお知らせいたします。

今までと同様、税の証明の申請、原動機付自転車の登録、廃車の手続きは、支所でもできます。ただし、固定資産の証明の申請、閲覧、土地の公図副本（更正図）の写しについては、旧市町村単位となります。

《市税に関する証明手数料について》

件名	手数料
資産に関する証明	1件につき 300円
所得に関する証明	1件につき 300円
営業に関する証明	1件につき 300円
公簿または図面の写しの交付	1件につき 300円
公簿または図面の閲覧	1件につき 300円
住宅用家屋の証明	1件につき 1,200円

※用紙一枚に納まる範囲が一件

となり、用紙が複数にわたる場合は、一枚増すごとに一〇〇円を加算します。

《固定資産の縦覧について》

■期間 四月一日（金）～五月三十一日（火）

■場所 旧市町村単位の対応となります。川西町に土地又は家屋を所有し、固定資産税を納税されている方は、今までと同様、川西支所で縦覧ができますが、十日町市に土地又は家屋を所有されている方は、本庁にて縦覧をお願いします。

《固定資産課税台帳の閲覧について》
四月一日から課税台帳の内容が平成十七年度の課税の内容に変わります。
手数料は、一件三〇〇円です。
ただし、縦覧期間中は無料となります。課税台帳の写しを希望される方は、一件三〇〇円の手料をいただきます。

《税金の納付方法及び場所について》

※窓口納付

本庁会計課または川西支所、中里支所、松代支所の税務課、松之山支所の市民生活課で納付できます。次の金融機関でも納付できます。

金融機関名	取扱店舗
第四銀行	本店・各支店
北越銀行	
大光銀行	
新潟県信用組合	
新潟県労働金庫	
上越信用金庫	
十日町農業協同組合	

※口座振替納付

現在口座振替をご利用の方は、新たな手続きは不要です。引き落とし金融機関もそのまま継続します。

取扱金融機関は左記取扱金融機関及び郵便局です。

※税金の納期限について

三月十日に全戸配布されました、「新市の生活の概要版」の16、17ページをご覧ください。

■問い合わせ

税務課

☎768-4960

教室・講習

「Hクッキングヒーター体験教室」

「お手軽メニューで、今日から我が家も洋食屋！」

◎日時 四月十六日（土）午前十時半～午後一時

◎内容

- ・ハッシュドビーフ
- ・キャロットライス
- ・イタリアンステイック
- ・いちごのトライフル

◎申込締切 四月十一日（月）

「簡単！おいしい！旬菜中華レシピ！」

◎日時 四月二十二日（金）午前十時半～午後一時

◎内容

- ・焼きそば
- ・水餃子など

◎申込締切 四月十八日（月）

■募集定員 十二人

■参加費 五〇〇円

■用意するもの エプロン

■会場 東北電力(株)十日町営業所クッキングスタジオ「えぷろん」

■申し込み・問い合わせ

東北電力(株)十日町営業所お客様センター

☎757-1987

『町の歴史』

頒布します

「川西町史」

「町史こぼれ話」

「川西町の板碑」

これまでに発刊した、町の歴史関係の冊子に若干の残部があります。購入をご希望の方は、ご連絡ください。なお、郵送の場合は送料をいただきます。

「川西町史」

・資料編（上・下巻）

・通史編（上・下巻）

全四巻セットで

価格 一五、〇〇〇円

「町史こぼれ話」

・第一集～第八集（第二集は完売）

価格 各集一冊一、〇〇〇円

「川西町の板碑」

価格 一冊 一、五〇〇円

■申し込み・問い合わせ

川西町教育委員会

☎768-2167

平成 17 年度

犬の登録 及び 狂犬病予防注射日程

日 程	会 場	時 間
4 月 27 日 (水)	室島集落センター	午前 9:15 ~ 9:25
	克雪管理センター	午前 9:50 ~ 10:10
	小白倉集落センター	午前 10:30 ~ 10:40
	高齢者コミュニティセンター	午前 11:10 ~ 11:40
	上野コミュニティセンター	午後 1:10 ~ 1:50
	中屋敷駐車場	午後 2:10 ~ 3:10
5 月 8 日 (日)	十日町市役所 (本庁)	午前 9:30 ~ 11:30

【注意】…例年実施していました総合センター会場は賑わい空間整備事業にかかる工事のため、本年度は中屋敷駐車場（中屋敷農村公園）に変更になりました。

■お持ちいただくもの

継続登録の方・・・通知はがき・印鑑・注射料金（3,100 円）

新規登録の方・・・印鑑・登録及び注射料金（6,100 円）

■お願い

犬を飼う場合には登録が必要です。また、犬の所在地や所有者の住所に変更があったとき、犬が死亡したときなどには必ず届出が必要です。

なお、詳細については下記までお問い合わせください。

■問い合わせ 生活環境課 環境衛生係 ☎ 768-3111

（4 月以降は、市民生活課 生活環境係）

ぼくも戸籍を
もっているん
だワン！



千手温泉・千年の湯からのお知らせ

千年の湯無料バスを 4 月 1 日以降も引き続き運行いたします。運行内容は、今までどおりです。

運行日等詳細については直接お問い合わせください。

■問い合わせ

千手温泉・千年の湯 ☎ 768-2988

『川西有機センター』の利用における 生ごみ収集を延期します

中越大震災の被害により、4 月に利用開始を予定していました『川西有機センター』の生ごみ収集を延期します。

なお、有機センター稼動に伴う生ごみ収集を 7 月に予定していますのでご了承ください。

詳細については後日お知らせします。

また、現在の『有機の里川西』での生ごみ収集は継続します。

■問い合わせ

生活環境課 環境衛生係 ☎ 768-4961

フリーマーケット開催

■日 時 4 月 24 日 (日) 午前 10 時～正午

■会 場 上野コミュニティセンター

※出品者と出店者を募集しています。申込締切は 4 月 16 日 (土) です。

■申し込み・問い合わせ

子育てネットワーク「ひろば」

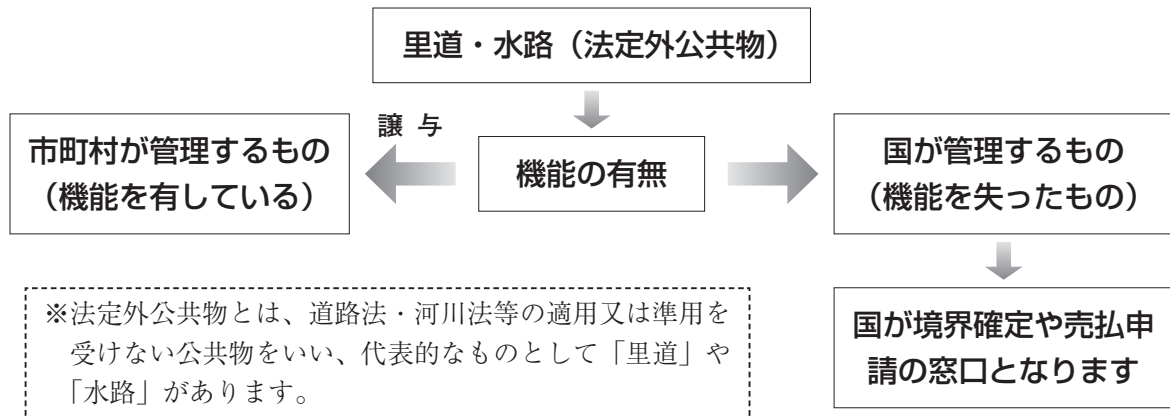
☎ 025-768-3171

平成 17 年 4 月 1 日から 里道・水路（法定外公共物）の管理者が変わります

里道や水路などの法定外公共物のうち機能を失ったものについては、平成 17 年 4 月 1 日以降財務省に引き継がれることとなりました。

これらのものについては、新潟財務事務所が管理し、境界確定や売払申請の窓口となります。

なお、公図や現況等では財産管理者が明確でないため、まず財産の所在する各市町村で確認してください。



照会先 関東財務局新潟財務事務所 統括国有財産管理官
☎ 025-229-2655

5 月 1 日（日）執行予定 十日町市長選挙及び十日町市議会議員 一般選挙立候補予定者説明会

市町村合併に伴う市長選挙及び市議会議員選挙の立候補予定者説明会を開催します。立候補にあたっての必要な手続きについて説明します。立候補予定者、代理人等の関係者は、出席してください。

【市長選説明会】

■日 時 4 月 4 日（月） 午後 1 時 30 分～
■会 場 十日町市保健センター 2 階 集団検診室

【市議選説明会】

■日 時 4 月 5 日（火） 午後 1 時 30 分～
■会 場 クロステン 2 階 中ホール

※市議選説明会は、会場の都合がありますので、一候補者につき 2 人までの出席をお願いします。

●問い合わせ

十日町市選挙管理委員会 ☎ 757-3111

油流出事故に気をつけて！！

- ◆給油中はその場を離れない！
- ◆油タンクのバルブを完全に閉めたか確認！
- ◆除雪する際は油の配管を破損しないように注意！
- ◆屋外の配管が雪、融雪により破損しないよう注意！
- ◆油送設備の操作ミス、誤作動に注意！

※誤って油を漏えいさせてしまった、または水路、河川などに油が流れているのを発見したときは、消防・警察または市町村役場へすぐに連絡してください。

千手温泉入湯税課税免除証明書の 失効について

平成 17 年 4 月 1 日の新市発足に伴い「千手温泉入湯税課税免除証明書」は、3 月 31 日をもって失効となる予定です。

なお、身体障害者等手帳交付者は 4 月以降新市管内の入湯税の課税免除の対象となる予定ですが、課税免除を受けるにあたっては、身体障害者等手帳の提示をお願いすることになります。

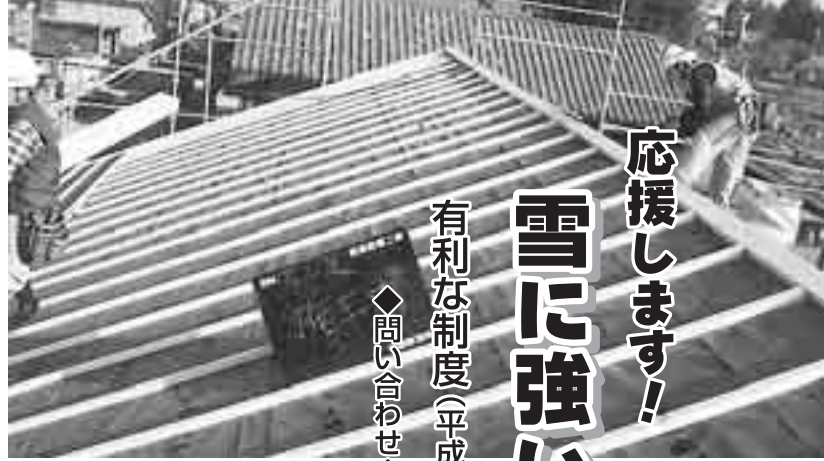
●問い合わせ 税務課 ☎ 768-4960

応援します！

雪に強いまちづくり

有利な制度(平成十七年度)をご利用ください

◆問い合わせ…建設課 ☎7681-4953



瓦屋根から融雪屋根へ(施工中)

克雪住宅協調整備事業

◆補助対象

【融雪式】

①融雪装置(地下水の解放利用を伴うものを除く)の設置工事で、新築・増築・改良によるもの。

②融雪構造住宅の新築・増築工事及び融雪構造住宅への改良工事。

【耐雪式】

3・3 m以上の積雪荷重(90 kg/m²) (ただし、合併前の川西町の区域については3・0 m以上とする) に対して安全な住宅の新築・増築工事で、原

則として雪庇対策を講じたもの。

◆補助条件

①右の住宅で、市が適正と認めたものを対象とします。

②個人住宅及び共同住宅で、併用住宅も含みます(新築建売住宅の購入も可)。

③原則として雨水及び融雪水による「地下水かん養施設」の設置が必要です。

④平成十七年度内に完成する住宅に限りです。

⑤克雪住宅づくり資金貸付制度を受ける場合でも該当します。

⑥過去に克雪住宅関連補助を受けたことのある方は該当しません。

◆補助金上限

44万円(ただし、合併前の松代町・松之山町の区域における落雪住宅及び高床式住宅については33万円とする。)

◆受付期間 四月一日より九月三十日まで。

※工事着手前に申請をしてください。

◆問い合わせ

合併後の本庁建設課建築住宅係または川西支所建設課

克雪住宅づくり資金貸付制度

◆対象工事・貸付額

【融雪式】

①融雪装置(地下水の解放利用を伴うものを除く)の設置工事：融雪装置の設置工事費の80%以内

②融雪構造住宅の新築工事：工事費の15%以内

③右の建物の改良工事：工事費の80%以内

【耐雪式】

3・3 m以上の積雪荷重(90 kg/m²) (ただし、合併後の川西町の区域については3・



今年は特に大変でした 屋根の雪おろし

0 m以上) に対して安全な住宅の新築・増築工事で、雪庇対策を講じたもの：工事費の20%以内

【落雪式】

①屋根勾配や、滑りやすい屋根材などを利用して雪を滑り落とす建物の新築・増築工事：工事費の10%以内

②右の建物の改良工事：工事費の80%以内

◆貸付条件

①右の建物で、市が適正と認めたものを対象とします。

②原則として雨水及び融雪水による「地下水かん養施設」の設置が必要です。

③克雪住宅協調整備事業の補助を受ける場合でも該当します。

◆貸付限度額

・融雪式または耐雪式：600万円

・落雪式：400万円

◆貸付利率

・融雪式または耐雪式：年1・50%

・落雪式：年2・00%

◆貸付期間

十五年以内

◆受付期間

平成十七年度内に完了するものであれば随時。

※工事着手前に申請をしてください。

◆問い合わせ

合併後の本庁建設課建築住宅係

議決報告

三月十日開会の第三回川西町議会定例会は、同日議題となった日程を終え、散会しました。

まず、諸般の報告のあと「平成十六年度川西町一般会計補正予算(専決第一五号)」ほか二件の専決処分した事件が承認されました。続いて、「川西町土地開発基金条例の一部を改正する条例」ほか三件の条例制定・改廃、「平成十六年度川西町一般会計補正予算(第六号)」ほか三件の特別会計・企業会計補正予算、新潟県町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約の変更ほか十一件の規約変更・委員会などの共同設置及び事務委託の廃止・定款の改正、川西町総合緑地公園ほか四件の公の施設に係る指定管理者の指定、二件の工事の請負契約についてが原案どおり可決されました。

これに先立ち、二月十四日には第二回川西町議会臨時会が開かれ、「平成十六年度川西町一般会計補正予算(第五号)」ほか二件の規約変更などが原案どおり可決・同意されました。

なお、三月二十八日に、川西町として最後の議会が行われますので、傍聴にお越しください。

第19回 かわにし雪まつり

顔のスマイが激戦を物語ります
(羽根けえし・上野)



3月5日、6日に開催された第19回かわにし雪まつりは、天候にも恵まれ、前夜祭 2,300 人、本まつり 2,800 人、合計で 5,100 人と多くの人出で賑わいました。

昨年同様前夜祭を各地区で開催したことや、大地の芸術祭以来交流が続いているこへび隊のみなさんと地元ボランティアの人たちが連携して企画・運営した新しいイベントも、定着・発展したようです。



わたあめ わっうまそー！ (千手)



当たりそうで当たらないのが雪玉ぶつけ (上野)



スノーチューブは子どもたちに大人気 (千手)

上野地区では、上野小学校グラウンドを会場に「雪の宴！うえの」が開催されました。昨年同様、上野地区の七つの集落・地区がそれぞれほんやら洞を運営しながら、集落対抗の雪上レクリエーションや、屋台村、炎の演出などで楽しんだもので、約四〇〇人が参加しました。特に、最後に「川西」の文

上野地区ほんやら村

三月五日の前夜祭は、昨年同様各地区で趣向を凝らした「ほんやら村」が運営されました。千手地区では、千手温泉・千年の湯周辺を会場に「春一番！スノーキャンドルでほんやらメッセージ発信」と題して、雁木通りをキャンドルでライトアップし、スタンプリリーや抽選会、もちつきなどが行われ、約四五〇人の人出で賑わいました。

千手地区ほんやら村

昨年からは始まった新しい雪まつりの流れは、前夜祭を千手、上野、橘、仙田の四地区それぞれが企画と運営で開催することと、大地の芸術祭からつながりのある「こへび隊」のみなさんと川西町の住民の協働による新しい催しを展開することです。

天気も味方につけて 多彩に開催



ゲームに熱中です（野口）



全員集合です（三箇）



とにかく乾杯！です（仁田）



みんなであったまりました（白倉）



5日も6日もステージは盛り上がりました（仙田）



よらねかの あったけぞの！（木落）

仙田地区では、「キラリあい
あい祭 前夜祭」と銘打って、
仙田体験交流館前広場で雪像や
洞内屋台、スノーキャンドルな
どに約二五〇人の地区住民が集
いました。
「ねこバス」をモチーフにし
たステージでは、フォークソ
ンググループ三叉路や演歌歌手山
口瑠美が出演する歌謡ショーが
展開され、会場周辺に歓声がこ
だましていました。

仙田地区ほんやら村

五地区合わせて約一、二〇〇
人の人出がありました。

橘・白倉地区ほんやら村

字がろうそくの炎で浮かび上
ると、目頭を押さえる人の姿も
見られました。

橘・白倉地区でも、五つの集
落・地区が運営するほんやら村
を結んで、「雪のふるさと茶屋
街道」としてまとまりました。
野口、仁田、木落、三箇、白
倉（大白倉、小白倉）の各集
落・地区では、それぞれ雪像や
屋台を中心に地域の人が集い、
もちつきや雪遊び、カラオケ大
会などで親交を深めました。



屋台も大繁盛しました



手づくり雪だるまには
独特の味があります



セロファンをつ
なぐ作業はみんなの力を合
わせて行いました



別世界みたい！

本まつり

総合体育館脇を会場に、恒例の屋台村、仮装十人十一脚レース、雪像コンテスト表彰、大抽選会などが行われ、本まつりとしては過去最高の二、八〇〇人の人出で賑わいました。

その一翼を担ったのが、今回新たに企画された「piece to peace〜希望へのかけ橋〜」です。

昨年の、町中の人たちの顔写真をつなげて平和へのメッセージを込めた巨大な壁画を創るという、壮大な企画「piece to peace」の続編として生まれた企画で、芸術祭の運営スタッフとして地域に関わった「こへび隊」のみなさんと住民スタッフの連携が実施を支えました。

ビニールパイプハウスに貼られた色とりどりの八、一五三枚のセロファンには、震災復興への願いや将来の夢などがちりばめられていて、さながら光のメッセージハウスのような趣がありました。

晴天にも恵まれ、セロハン越しに射し込む光もカラフルで、十日町市から見学に来たという四十代の女性は、「雪にも色が映って、すごくエキゾチック」と感激していました。

また、今回の新しい取り組みとして、「元気雪だるま」というものも行なわれました。

これは、保育園児から震災復興等のメッセージを描いた旗に色を塗ってもらい、家庭に持ち帰って家族と一緒に雪だるまを作り、その雪だるまに旗を立てて、雪まつりを盛り上げてもらうというものです。



みんなで雪だるまにつける旗を塗ったよ
(仙田保育園)

思い思いの色に塗られた旗をつけた雪だるまが、町のあちこちで見られました。

昨年「住民総参加」を掲げて開催されているかわにし雪まつりは、これから住民自治が一層求められる時代を迎えるに当たっても、とても大きなステップとなっているようです。

優秀賞



「おんがえし」

木落三嶋会

優秀賞 (ライトアップ賞とも)



「五星結新星輝」

仁田熊野神社神輿会

最優秀賞 (ライトアップ賞とも)



「復興を願い夢とロマン」

小白倉白進会

雪像コンテスト結果

仮装10人11脚レース結果

タイムトライアル
(大人の部)

タイムトライアル
(子供の部)

仮装部門



2位 オレーオレーまヌけんサンバ



1位 川西中学校陸上部 BOYS



2位 Speed X



1位 イエローきらちゃんず☆



銀賞 マツケンサンバ



金賞 飛芝の会

第十九回 かわにし雪まつり ご協力御礼

去る三月五日、六日に開催いたしました「第十九回かわにし雪まつり」は、天候にも恵まれ、川西町としての最後の雪まつりにふさわしく大勢の方々からご参加いただき、盛大に開催することができましたことを心より感謝申し上げます。

また、まつり開催に際しましては、関係機関、各種団体等の方々から多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回は、「人が元氣、町が元氣、自然が元氣」をスローガンのもと、「かわにし」らしいまつりを開催しようと準備を進めておりましたが、中越大震災や十九年ぶりの豪雪に見舞われ、作業が大幅に遅れたにもかかわらず、皆様方のご尽力により無事終了することができました。

地域の方々が主体となって開催していただいた「ほんやら村」は昨年同様、それぞれ趣向を凝らした催しが行われ、本まつりでは、毎回大人気の各種イベントのほかに、町内外の方々からお寄せいただいた八、一五三枚にもおよぶ熱いメッセージをつなぎ合わせ、震災にも大雪にも負けない「希望へのかけ橋」を象徴した光のプロムナード(散歩道)を会場に展示し、大きな感動を呼ぶことができました。

今後も「かわにし」らしい雪まつりになるよう、なお一層の努力をしたいと考えておりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげ、御礼のごあいさつとさせていただきます。

平成十七年三月二十日

かわにし雪まつり実行委員会
会長 川西町長 田口 直人

川西町の歴史に幕 合同竣工式とともに閉町式を挙行



式典はおごそかに始まりました

二月二十六日、川西中学校体育館で、川西町閉町式、平成十六年度川西町合同竣工式が行われました。

これは、例年実施されている合同竣工式に合わせて、四八年七か月に及ぶ川西町の歴史に終止符を打つ閉町記念式典を行ったもので、町内外から約三〇〇人が参加しました。

式典はまず、押木助役の開式の辞に始まり、国

歌斉唱、町内各校の小学生代表による町民憲章朗読と続きました。

「昭和の合併直後の予算（三四〇万円）から、現在では一五〇〇倍以上の五二億円にも伸びている。まさに隔世の感があるが、その間の先人の血のにじむような努力の結果であり、その意を体して、震災にめげず新しいまちづくりを進めていきたい」という田口町長の式辞、吉榮議長のあいさつに続き、泉田裕彦新潟県知事（新潟県出納長代理）、筒井信隆衆議院議員（代理）、上村憲司新潟県議会副議長、山本茂穂中里村長・中魚沼郡町村会長、柴生進兵庫県川西市長の来賓あいさつがありました。

続いて、平成十八年度事業の施工業者への感謝状の授与、川西町表彰条例に基づく表彰が行われ、特別功労表彰として金子 幸作さん（79／岩瀬）が、功労表彰として保坂次夫さん（85／沖立）、南雲隆三さん（71／三領）、上村政基さん（79／上野）、善行表彰として藤巻定則さん（81／上野）、小林義幸さん（71／中仙田）、清水嶺子さん（58／上町）、金子健さん（57／千葉県船橋市）がそれぞれ表彰されました。

休憩をはさんで、広報かわにしに連載された「おらムラの話」の執筆者で郷土史家の上村政基氏による「川西地方の大昔」と題した記念講演が行われました。講演の中で上村氏は、千五百年以上も昔からこの地域が中央の歴史に密



元気いっぱい
町民憲章を唱えました



会場には「故郷」
の歌声が響き渡り
ました

接に関わっていたことを踏まえて、新しいムラづくりを進めていかなければならないと語りかけ、会場には大きくうなずく人の姿が見られました。最後に、参加者全員で「故郷」を合唱して町旗を降納し、根津収入役による閉式の辞で式典を閉じました。

この日から、新しい十日町市に向けた歩みがスタートしました。

川西高校生徒 スマトラ沖地震被災地への 募金活動で恩返し

このほど、川西高校の生徒がスマトラ沖地震の被災地の救援として募金活動をしました。

放送での呼びかけや各クラスにチラシを貼るなど、生徒会全体で取り組みました。

新生徒会長

の庭野将人さんは、「中越大震災の時にいろいろと支援していただき、学校へも救援物資が届きました。本当にありがたかったので恩返しの気持ちで取り組みました。みんなが快く募金してくれました。この募金には、困っている人達を助けたいという気持ちが込められています」と集めた三〇、〇〇五円を田口町長に手渡しました。

この救援金は、日本赤十字社新潟県支部を通じてスマトラ沖地震の被災地へ送られます。

中越大震災は様々な傷跡を残しましたが、思いやりや感謝の気持ちをも植え付けてくれたようです。



ずっしりと重い義援金

十九年ぶりの豪雪 町内に大きな被害

昭和六十一年以来十九年ぶりの豪雪となった今冬、最高積雪は二月十二日の三四センチメートル（三月十日現在）に達し、誰もが除雪などでてんでこまいになりました。

また、この雪は各地に大きな被害ももたらしました。三月十日現在、除雪作業や雪崩などによる事故で死亡二人、重傷一人、軽傷二人の合計六人の人的被害があったほか、住宅、倉庫など合わせて十棟が全壊しました。

消雪日も例年よりかなり遅れるものとみられ、融雪災害の発生とともに、農作業などへの影響が懸念されるところです。



休日だけでは屋根の雪掘りが間に合いませんでした

3か月遅れて開催、全国川西会議（ネットかわにし）総会

2月25日、地域休養施設松葉荘を会場に平成16年度ネットかわにし）総会が開かれました。

これは、平成9年から兵庫県川西市、奈良県川西町、山形県川西町、新潟県川西町が持ち回りで開催しているもので、今年度は当町が開催地となりました。

当初は11月に行われる予定でしたが、新潟県中越大震災の影響でここまで延期されていました。

当日は、4市町の市長・町長をはじめ、議会議長、関係部局の職員などが一堂に会して事業内容等を審議するとともに、今後の展開などを話し合いました。

特に、市町村合併と今後の同会議のありかたについては、当町が4月に合併するため、当面合併の予定がない3市町との交流事業や同会議の存続について、微妙な問題となっていました。今後、災害時総合援助活動や交流事業を継続することを決定しました。

総会終了後、一行は賑わい空間創出事業で整備された千手温泉・千年の湯やひだまりプール、農産物直売施設じろばたなどを視察するとともに、翌日行われた川西町閉町式、平成16年度川西町合同竣工式にも出席し、さらに交流を深めました。



しっかりと手を握り合う4市町のトップ

社会福祉協議会法人化二十五周年 式典並びに解散式挙行

昭和五十四年に社会福祉法人として法人格を取得した川西町社会福祉協議会は、今年度二十五周年を迎え、三月九日、地域休養施設「松葉荘」において法人化二十五周年記念式典、そして市町村合併に伴う法人解散式が行われました。

式典では、特に尽力された役員として中村健一さん（80・坪山）、南雲良さん（80・寺尾）、大久保三吉さん（79・野口）、北村日出太さん（76・山野田）、太田義雄さん（90・中屋敷）、清水リイさん（81・下平新田）、滋野豊

子さん（65・野口）、社会福祉協議会への高額寄付者として南雲春雄さん（78・発電所通り西）、そして町の福祉の支えとなった川西町ボランティア連絡協議会（代表白井マサさん）に感謝状が贈られました。

その後、新潟青陵大学福祉心理学科教授学科長の土橋敏孝氏による「合併後における地区社協の目指す方向性について」というテーマの記念講演が行われました。土橋教授は、昨年八月に大学のゼミで学生と川西町を訪れて実態調査し、その成果をもとに町の実情に沿った講話を展開しました。

小林義幸同協議会会長は「住民、関係機関、役員員としてボランティアのお陰でここまで来る事が出来た。本当に感謝したい。合併しても目指すところは同じ、組織は大きくなっても住民と密着した社協でありたいし、また皆様から変わらずご協力をいただきたい」と新たな決意を語りました。

社会福祉協議会は、自治体と同じように四月一日には合併して十日町市社会福祉協議会となり、現在の事務所「はあとふる川西」は、川西支所となります。



あいさつする小林会長



菊池校長に卒業記念品の目録を手渡す小野塚裕さん

川西中学校で卒業証書授与式 71人が巣立つ

3月7日、川西中学校（菊池良秀校長）体育館で第44回卒業証書授与式が行われ、男36人、女35人、合計71人が巣立っていました。

すがすがしい緊張感が漂う中、生徒一人ひとりに卒業証書が授与され、菊池校長の、「あいだみつをのことは『夢はでかく、根は深く』のように、本当の自分をみつけて大きく伸びていってほしい」という式辞に真剣なまなざしで答える生徒の姿が印象的でした。

教育委員会告辞、来賓祝辞などに続き、記念品授与、記念品贈呈が行われ、卒業生からはプランターボックス3台が学校に贈られました。

新しい世界へは、新十日町市民として羽ばたきます。

復興の炎赤々と 大白倉で 月遅れのバイトウ

二月十二日、大白倉の小正月行事「バイトウ」が、大雪のため約一か月遅れで行われました。直径約七メートル、高さ約十メートルの木とわらで作った家形に集落や町内外から駆けつけた約六十人が集い、しばしの歓談を楽しみました。そして、午後九時、豊作と震災の復興を願って点火されると、夜空を焦がす炎が一気に燃え上がり、まつりは最高潮に達しました。実行委員長の中村強さん（48・大白倉）は、「これだけきれいに大きな火になったのは久しぶり、きつと今年は豊作でいい年になるぜ」と、大きな声で万歳をくり返していました。



燃え上がるバイトウ



あったかくて広い内部

卒業式を三月四日に終え、今年度も、あと一〇日を残すのみとなりました。年度末のこの時期に当たり、今回は本校における学校自己評価の実施について、概要を紹介したいと思います。

本年度から、本校では学校自己評価について、学校長の指導のもと、学校評価委員会を設置して、先進校の取り組み等を参考にしなが、具体的な現状分析と「目指す学校像」の明確化に取り組んできました。

その具体的な方法は主に次の三点です。

みんなが楽しんだ体験
みんなが楽しんだ体験



①各教科分掌、各教科による重点目標

②生徒・保護者・職員による「学校評価」アンケートの実施と分析

③学校評議委員会による提言

このほか、生徒総会等における生徒の意見、PTA総会、保護者の御意見等を参考にしながら、できるだけ具体的な形で本校の現状を分析しているところ

です。

平成十六年度については：○「自律、和敬、力行」の教育目標のもと、将来、社会に貢献できる人材を育成する。

○生徒が元気で楽しく学べる学校、地域の中で「愛され」「期待される」学校となるように努める。

…を、教育方針のもとに学校運営をしてきました。

今回の学校自己評価では、次の三点を主な内容として公表する予定でいます。

①各教科分掌による重点目標の反省（「学校自己評価課題別評価表」）

②各教科による重点目標の反省（「学校自己評価課題別評価表」）

③生徒・保護者・職員による

「学校評価」アンケートの結果
以上が平成十六年度の学校自己評価となります。

特に②生徒・保護者・職員による「学校評価」アンケートの結果については、いただいたご意見を関係分掌・学年で検討し、平成十七年度の活動に生かして行きたいと考えています。

生徒の成長の過程を重要視する教育の特殊性や複雑性を鑑みますと、短期的、また数値的なもので必ずしも評価できるものでないという意見もあります。

今回は、その一端をこのような形で評価することを試み、それを糧として「より見える形」で生徒・保護者・地域の皆さんから、本校の取り組みを理解していただく方法を探ってみました。

今後も本校は「開かれた学校づくり」を目指したいと考えていますので、皆様からの温かい支援と、忌憚のないご意見をうかがえればと思っています。

なお、公表については、本校ホームページで掲載したいと考えています。

（ホームページアドレス）

<http://www.kawanishi-h.nein.ed.jp/>

h.nein.ed.jp/

オールスター キャストです



ズラリ勢ぞろいのメンメン。役場職員互助会の解散式での記念写真です。かなりノリノリ、さながらどこかの（成人？）大学の卒業式のように…。

こんな表情の職員を見る機会もあまりないのではないでしょう。いつも、職場で難しい顔をしている職員も、みんな生身の人間です。

川西町というひとつの旗の

もとでつながっていました。が、四月からは十日町市という新しい器でそれぞれの歩みを始めます。

この日、「川西町という名前はなくとも、これから地域のために全力を尽くそう」と誓い合いました。

長い間ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いいたします。

第27回 川西町民スキー大会 第20回 川西町小学校親善スキー大会

去る二月六日、中子クロスカ
ントリースキーコースを会場
に、第二七回川西町民スキー大
会兼第二〇回川西町小学校親善
スキー大会が開催されました。
種目ごと成績は次のとおりです。

〔中学生男子6 km〕

- 一位 川崎 茂人
- 二位 登坂 裕和
- 三位 太田 渉
- 四位 丸山 廉太
- 五位 丸山 文央
- 六位 丸山 允央
- 〔中学生女子4 km〕
- 一位 丸山 夏織
- 二位 片桐 知美
- 三位 江口 愛美

〔小学6年男子〕

- 一位 小林 大樹(千手)
- 二位 星名 陽太(千手)
- 三位 羽鳥心之介(千手)
- 四位 和久井冬樹(橘)
- 五位 秦野喜三彦(橘)

〔小学6年女子〕

- 一位 樋口 真央(仙田)
- 二位 高橋 りほ(千手)
- 三位 丸山未彩紀(橘)
- 四位 富田 瑞希(千手)
- 五位 川崎 安樹(千手)
- 〔小学5年男子〕
- 一位 丸山 秀也(橘)
- 二位 星名 太一(千手)
- 三位 内山 弘章(上野)
- 四位 柳 成彦(千手)
- 五位 丸山 俊貴(千手)

〔小学5年女子〕

- 一位 南雲 淳美(仙田)
- 二位 小山えりな(橘)
- 三位 相馬 由佳(橘)
- 四位 小海 亜美(上野)
- 五位 宮 優子(千手)

〔小学4年男子〕

- 一位 村越 拓海(橘)
- 二位 白井 凌(千手)
- 三位 小林誠一朗(千手)
- 四位 小林 和真(千手)
- 五位 星名 来紀(上野)

〔小学4年女子〕

- 一位 丸山 美佳(千手)
- 二位 渡邊 美央(千手)
- 三位 高橋 幸(上野)
- 四位 丸山奈都子(橘)
- 五位 佐藤明日夏(橘)
- 〔中学生男女混成リレー〕
- 一位 ななめ後ろの Hinoくん's
- 二位 Superクロカン Brothers
- 三位 Team 雪崩
- 四位 トナリのオータクくん's

〔小学生男子リレー〕

- 一位 千手キララ竹
- 二位 橘小6年男子
- 三位 千手キララ梅
- 四位 上野スノーマン
- 五位 千手キララ松

〔小学生女子リレー〕

- 一位 仙田 DEKOCHANZ
- 二位 橘小5年女子
- 三位 きらら千手シルバー
- 四位 橘小6年女子
- 五位 スーパースペシャル上野

第3回 小学生フットサル大会

二月十三日、第三回小学生
フットサル大会がスポーツパ
レス川西を会場に開催されま
した。

- 〔PTAの部〕
- 一位 上野小学校
 - 二位 橘小学校
 - 三位 千手小学校

また、今回は新たな試みと
してPTAの部も行なわれ、
大人たちの熱戦？が展開され
ました。閉会式では保坂体育
協会会長から表彰が行なわ
れ、競技終了後に開かれた懇
親会及び川西町サッカー協会
さよならパーティーでは、
「なんざかったども楽しかつ
た。また参加したい」という
意見が多く聞かれました。今
後の定着が期待されます。
各部門の成績は次のとおり
です。

- 〔ベストフアィブ〕
- GK 渡貫 富博(上野)
 - 野沢 誠(橘)
 - 小林 大樹(千手)
 - 羽鳥心之介(千手)
 - 樋口 真央(仙田)

〔低学年の部〕

- 一位 橘小学校
- 二位 千手小学校
- 三位 仙田小学校

〔高学年の部〕

- 一位 千手小学校
- 二位 上野小学校
- 三位 橘小学校

カップは
ずっしり重いです

川西町 体育協会

会長あいさつ



川西町は、広域市町村合併により四月一日をもって新十日町市となります。

体育協会も、遅まきながら今年度から五市町村の体協役員による合併に向けた協議を重ね、来年度から新市の体育協会を発足することになりました。

川西町体育協会は、現在加盟二五団体（一七種目団体・四地区別団体・一スポーツ・三体育連盟）を擁しています。合併後は、それぞれの団体も新市体育協会の傘下におかれます。

しかし、現在の五市町村の体育協会にはそれぞれ独自の運営方法等があるため、いきなりすべての加盟

団体がひとつにまとまるというわけにはいきません。

したがって、川西町体育協会は十日町市体育協会川西支部という名称になりますが、来年度については、現在と同程度の活動内容をしていと考えています。

本協会は、昭和四十七年に発足以来、幾多の問題に直面しながらも、関係各位の英知とたゆまぬ努力によって現在まで三十三年の歴史を重ね、地域の社会体育を担う団体として発展してまいりました。

川西町体育協会の幕を閉じるにあたり、諸先輩方はじめ、町民及び加盟団体の皆様方の並々ならぬご支援ご尽力に対し深く感謝申し上げます。ご挨拶といたします。

平成十七年三月

川西町体育協会会長

保坂 和則

「ホール」に名前をつけてください。

役場前の賑わい空間エリア内で建築工事を進めている「千手中央コミュニティセンター」は、来年二月中旬に完成予定です。この施設の一階に、約二五〇平方メートル、稼働席を利用し

がせ
お騒が
しています
工事が進む
千手中央コミセン

た時には二五〇人ほど収容できる「ホール」があります。このホールが多くの皆様から親しまれ、ご利用いただくために名称（愛称）を募集します。応募方法は次のとおりです。奮ってご応募ください。

●名称

「〇〇ホール」といったよう

に、名称の末尾に「ホール」という文字が付いた名称としてください。漢字の場合は、ふりがなを付けてください。

●応募方法

ハガキ一枚に名称を一点記入ください。郵便番号、住所、お名前、年齢、電話番号を記入ください。応募は、お一人一点（ハガキ一枚）。

4

名称（愛称）
募集

●応募の締切

平成十七年三月三十日（当日消印有効）

●応募先

郵便番号 九四八〇一四一
川西町霜条一四四 総合体育館内 社会教育係

●審査・記念品

応募された中から、最もふさわしい一点を採用します。採用

された名称に、応募が多数の場合は、抽選の上、記念品を差し上げます。



ホールのイメージ図

正面に描かれている緞帳デザインは、イメージデザインです。正式に採用するデザインは、現在、平野壮弦氏（川西町山野田出身、書家・コマーシャルカリグラファー）にお願いしています。

「そばがら」プロジェクトの巻

「そばを育てた土で形を作り、そばがらの灰を調合した釉薬（ゆうやくすり）をかけて焼いて、そばを食べる器を作りました」。

今年で十五回目となる「IDSデザインコンペティション 2005」（財にいがた産業創造機構主催）で「IDS審査委員賞」に輝いた作品『「そばがら」が育んだ粋なそばの器たち』を前に、作者の村山大介さん（28・十日町市伊達／中央）は、少しは

にかみながらそう言います。「つまり、すべてそばにこだわって作ったんです」と藤井崇さん（79・赤谷／右）が

つなげます。

高校卒業後、陶芸の専門学校を経ていくつかの工房で修行を積み、昨年の三月に自らの工房を設けた村山さんは、常々「地元の素材でここにしかない物を焼きたい」と思っ



ていました。

父親の友人である藤井さんの工房でそばがらの燻炭（くんたん）が目に止まり、「これで釉薬が作れないだろうか」とひらめき、苦労の末に調査・焼成に成功して受賞に結びつきました。

材料のそばがらを提供したのはそば店を経営する小林重則さん（49・木島／左）で、「たいしたこはとしてねやんで」と言いながらも、「器の形や種類は小林さんのアドバイスのおかげ」（二人）というほど深く関わりました。

そばがらでつながった三人のプロジェクトは、これからもずっと続きそうです。

健康は「自分で作る大きな財産」

このコーナーではさまざまな健康に関する情報をお伝えしてきましたが、今回が最終回となりました。

十六年度は春から熊騒動に始まり、七月の豪雨・十月の地震・一月の豪雪と本当に災害の多い年になってしまいました。

その時々には、災害に備えて・・・などあれこれ考えをめぐらすのですが、いったん落ち着きを取り戻してくると、どうも日常の生活に流され、おろそかになってしまいがちです。皆様はいかがでしょう？

「健康」もまったくそれと同じです。カゼで寝込んでしまったり、身近に病人が出たり、あるいは健診等で何かを指摘されると、その時は健康のありがたさを痛感し、気をつけたりもするのですが、すぐに忘れてしまいがちなものです。

健康であるからこそ、あえて「健康」を意識しなくてすむという点ではありがたいこ



となのかもしれない。でも、この「健康」は、一度失ってしまうと、回復にとっても苦労します。元気で稼げること、おいしいものが食べられること、一生懸命農作業に励めること、お茶のみに出かけられることなどなど、これらすべてが健康であるからこそのものです。

とかく日常の忙しさに「健康」はないがしろにされがちですが、身体あつての生活です。ここであつと自分の「健康」について考えてみてください。

健康はお医者さんが作ってくれるものではありません。自分で日ごろから食事に気をつける、体を動かす、適度に

休養をとるなどして、健康な身体を作り上げることが大切です。これは、お金では買えません。「健康は自分でつくる大きな財産」です。

物があふれ、生活が便利になり、一方でストレスが増大する現代です。あなたの身体が喜ぶことは何ですか。あまり無理をすると長続きしません。できることでよいのです。

三食きちんと食事を摂る。散歩に出かける。いろんな人としゃべりをするなど、身体の喜ぶことを、細く長く続けていくことで、大きな財産が出来上がるのです。

新生十日町市を作るのは、そこに住む「人」です。ぜひ人が元気なまちで、新しい歴史を作っていきましょう



健康づくり
シンボルマーク

善意

(敬称略)

新潟県中越大地震の復興に(義援金)

三月九日現在

三、九七二万二、三九六円(四九二件)

福祉に

戸田 毅(仁田) 十万円
藤巻 勇作(塩辛) 十万円
小幡 正良(仁田) 三万円

戸籍の窓から

昇天—ごめい福を祈る

戸田 哲次(本人) 仁田
和田 尚之(本人) 仁田
長谷川 正巳(本人) 寺尾
藤巻 勇(勇作) 塩辛
丸山 フジ(本人) あかね園
田口 寛一(本人) 木落
小林 栄作(本人) 中仙田
小海 量平(本人) 小根岸
田中 弘(久松) 発電所通り西
小野 塚繁(本人) 四郎兼

うぶ声—おすこやかに

山田 友大(雄二) 美咲町
上村 海晴(桂司) 元町
涌井 美優(政弘) 上野
野上 大輔(義人) 上町
羽鳥 真愛(典子) 伊友

高砂—ご円満に

丸山 秀昭 原田
浅野 麻奈美 小千谷市

(2月1日—28日届け出順)

かわい俳壇

高崎正風選

雫しておりて氷柱の太りをり
一とすじの音を残して滝凍てる
シベリアの春を思えば涙かな
岩瀬 登坂伊智子

ふるさとの落生ふ径のまだありて

練馬区 須藤 遊人

雪折れの桜切りしは用務員
搗きたての草餅を負い姉来る

野口 村越 由喜

雪合戦課外授業の賑やかに
雪卸し済ませて千手温泉へ

小白倉 田中 優美

傘寿吾れ命綱かけ雪卸す
除雪車に地震より揺る、わが家かな

上町 高橋 願似

雪掻きや頼られるとは生きること
大寒の新しい筆馴染まざる

新町新田 若山 向山

スキー場昔はどこも子沢山
七十路の余生静かに春立ちぬ

足立区 涌井ハル子

美しき山より出たり春の月
雀の子庵の小庭を親しめり

元町 田畑 吉治

突堤の先の先まで雪煙り
被災地の雪解ようやく掃りし

霜条 星名 星光

少しづつ日脚の伸びて春近し
雪国の生けるものみな強きかな

野口 村越 こう

幾重にも積りし跡や雪の層

雪洞の明り仄かに雛かな

山野田 中條 石平

初孫も教師七とせ春近し
雪除けの出来ぬ夫婦に窓暗く

新町新田 若山 清子

二度三度懐かしく見る賀状かな
初刷の分厚き新聞受け取りぬ

野口 高橋 波京

小鳥来て南天の実を食べ尽くし
ストーブのそばで文書く今日の雪

八王子市 松浦 サク

梅の香に引きとめられし友の家
豪雪に花桃の枝折られけり

霜条 蔵品ハツエ

地震など来るなど豆を撒く子かな
屋根の雪落ちて二階も暗くなる

田中町 石沢 澄代

◆おこつわり◆

「戸籍の窓から」及び「かわいし俳壇」のコーナーは、本号をもって終了させていただきます。(諸般の事情により、「市報とおかまち」には引き継ぎません)
長い間、ご投稿・ご愛読ありがとうございました。

休日救急医

3月20日 田中外科医院
(十日町市田中町本通)
☎52-2403
21日 たかき医院
(十日町市土市第5)
☎58-2361
27日 本町クリニック
(十日町市本町3丁目)
☎50-1160
4月 3日 小林内科医院
(十日町市中条中町)
☎52-7155
" 津南病院
(津南町大割野)
☎65-3161
10日 石川医院
(津南町上郷宮野原)
☎66-2061
" 中条病院
(十日町市北原)
☎57-3018

■表紙の写真

一枚のセロファン紙は小さくても、8,153枚集まると感動の空間が生まれます。ゲームも10人11脚も一人ひとりの気持ちが合わないとうまくいきません。

ときには転ぶことがあっても、また起きあがって、一緒に歩いていきましょう。

?町勢要覧クイズです?

「2003町勢要覧」に記載されている内容を中心にクイズを出してきましたが、今月号で終了となります。

地域再発見のきっかけになればと、川西町の歴史や自然、意外な事実などにこだわって出題しましたが、約3年間で延べ約320人もの方々からご応募いただきました。中には、毎月のように正解を送り続ける方もいらっしゃいました。

長い間、ありがとうございました。

<2月号の答え>

川西町の面積は「73.55㎡」

今回は、正解者全員に記念品をプレゼントします。(敬称略)

竹口 幸(上野)、中島利男(東京都台東区)、南雲 洋(横浜市)、桑原要雄(新潟市)、丸山福太郎(発電所通り西)、上村千代子(下平新田)、高橋勇吉(三領)



「無題」

1年生 尾身幸奈



「シャチのジャンプ」

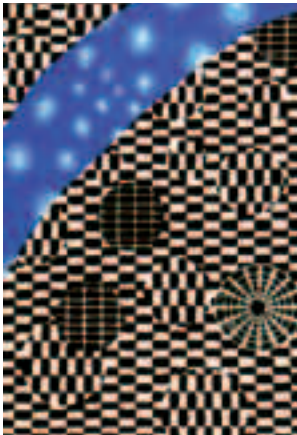
1年生 星名洋紀



「カスミザクラ」

1年生 和久井美穂

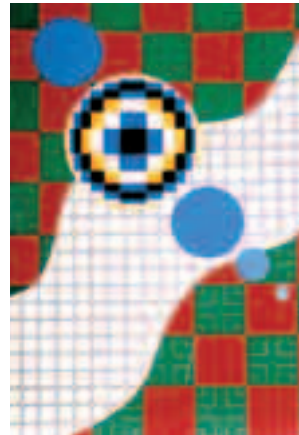
「錯視をつかった平面構成」



1年生 村越真弓



1年生 田口詩織



1年生 須藤智美



1年生 野沢みずき

「無題」

3年生 高津好孝



「サイレン」

2年生 星名里香



「雪国」

2年生 白井大博



川西町として最後の年は、豪雨・震災・豪雪と災害づくめになってしまったが、そのことが、ここに生きている人同士のつながりを深めた。
町が消える悲しみをそのまま受け止めながら、みんなで新市の夜明けを祝おう。



川西町の幕が閉じようとしている。
自治体の名前が変わっても、生活そのものが劇的に変化することはない。日々の暮らしや季節は何事もなかったかのように過ぎていくのだろう。
それでも、四十八年七か月にわたって慣れ親しんだ名前が消えることには、誰もが少なからず感傷を覚えることと思う。

